

東京都薬剤師会 令和3年度事業報告

令和3年度も2年度と同様に新型コロナウイルスへの対応に終始せざるを得ない一年となった。

前年度に引き続き、東京都が実施する新型コロナ関連の各種支援事業について、事務手続き上の協力並びに情報の提供、支給金等受給のための支援等を行った。また、東京商工会議所の依頼を受けた東京ワクチンチームの一員として、東京都医師会、東京都歯科医師会、東京都看護協会との連携の下、地区・職域薬剤師会の皆様からご協力を得て、ワクチンの分注業務を行った。さらに、東京都からの要請により、都が設置する大規模接種会場を巡回し、ワクチン分注業務等の状況を確認のうえ指導にあたった。

講習会・研修会等については、Web開催又は会場と併用等の多様な方法で開催し、多くの薬剤師が自己研鑽のために参加する機会を失わないよう最大限の配慮に努めて開催した。地区及び職域薬剤師会会長会、総会等も含め、会場での開催においては感染防止対策を徹底し、会務および事業の遂行に支障の無いよう精一杯努めた。

このような状況下ではあったが、薬剤師として必須となる「更なる資質向上」を目指すべく、生涯学修プロジェクトを立ち上げ、生涯学修プログラムの策定に向けて検討を重ねた。また、令和4年2月18日、本会の生涯研修認定制度が公益社団法人薬剤師認定制度認証機構(CPC)より認証を受け、3月から認定研修開催申請の受付を開始、4月1日から認定薬剤師の認定申請受付を始めている。

活動テーマ：「すすめよう 都民のための地域連携」

重点事項：

- 薬機法等改正に関する対応と周知・徹底
- かかりつけ薬局機能の向上及びかかりつけ薬剤師育成事業の継続的な実施・支援
- 「健康サポート薬局」「地域連携薬局」及び「専門医療機関連携薬局」の認定取得に向けた支援
- これからの薬剤師像を見据えた薬剤師生涯教育の充実
- ICT等の運用に係る薬局基盤整備、薬剤師資格証申請に係わる業務の推進
- 新型コロナウイルスを含む新型インフルエンザ等対策、災害時における医療救護対策の推進
- 地域包括ケア(切れ目のない薬物療法の提供)に向けた薬・薬連携の推進
- 地域フォーミュラリーを見据えた後発医薬品選択指針の例示

コロナ禍の中、これらの事業の遂行に注力したが、3年度も東京都からの委託事業・補助事業を含め、実施事業の規模の縮小や中止を余儀なくされた。しかし、前年からの経験を踏まえ、繰り越された事業への対応も行い、会員の皆様からのご支援も戴きつつ、概ねの業務を遂行することができた。詳細は、以下に記載の通りである。

第1 一般会務報告

1. 会員数 6,909 名(令和4年3月31日現在)

【資料1】

2. 会議等開催状況

(1) 総会(第99回通常総会、第100回臨時総会)	2回
(2) 総会議事運営委員会	4回
(3) 役員選挙管理委員会	1回
(4) 代議員選挙管理委員会	2回
(5) 東京選挙区日薬代議員打合せ会	2回
(6) 「都薬功労賞」授賞者選考委員会	1回
(7) 令和3年度都薬功労賞授賞式	1回
(8) 地区及び職域薬剤師会会長会	11回
(9) 業界紙(誌)共同取材・定例記者会見	11回
(10) 理事会	23回
(11) 会長・業務執行理事打合せ	23回
(12) 正副会長打合せ会	6回
(13) 担当役員会	18回
(14) 常置委員会(小委員会含む)	88回
(15) 特別委員会(小委員会含む)	22回
(16) 監事監査会	4回
(17) 顧問・相談役会	2回
(18) 薬事衛生自治指導員全体講習会	1回
(19) 薬学講習会	1回
(20) 基準薬局中央研修会	1回
(21) かかりつけ薬剤師研修会	1回
(22) 薬局業務研修会	1回
(23) 臨床薬学講座	2回
(24) 管理薬剤師研修会	4回
(25) 登録販売者研修会	3回
(26) 高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修会	1回
(27) 「実務実習受入薬局」伝達講習会	1回
(28) 薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議	1回
(29) 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	4回

(30) 認定実務実習指導薬剤師 更新講習会	1 回
(31) より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ	1 回
(32) 学校薬剤師東京ブロック連絡会議及び担当学会議	1 回
(33) 公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会	1 回
(34) アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会	1 回
(35) 禁煙支援薬剤師認定審査会	2 回
(36) 無菌調製技能習得研修会(講義・実習)	2 回
(37) 無菌調製技能習得研修会「ステップアップ研修」	1 回
(38) 災害時薬事活動リーダー研修	1 回
(39) 在宅医療・介護地区担当学会議	1 回
(40) 在宅療養多職種連携研修会	1 回
(41) 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業	
	地区担当学会議 1 回
	関係者連絡会 1 回
(42) 在宅医療ステップアップ研修会	3 回
(43) 薬局管理者のためのコンプライアンス研修会	4 回
(44) 医療保険地区指導者研修会	1 回
(45) 健康サポート薬局のための技能習得型研修《研修会 A》	1 回
(46) 健康サポート薬局のための技能習得型研修《研修会 B》	1 回
(47) 直扱会員都薬アワー	1 回
(48) 「かかりつけ薬局育成事業」編集会議	5 回
(49) 東京都薬剤師認知症対応力向上研修	2 回
(50) 認知症サポート薬剤師面接授業	1 回
(51) 薬薬連携推進事業担当者説明会	1 回
(52) 薬薬連携推進関係者連絡会	1 回
(53) 薬薬連携推進研修会	1 回

3. 役員の公的機関等への参画

【東京都福祉保健局 関連】

東京都医療審議会 : 永田会長
東京都薬事審議会 : 永田会長
東京都国民健康保険運営協議会 : 永田会長
東京都後発医薬品安心使用促進協議会 : 永田会長
東京都保健医療計画推進協議会 : 高橋副会長
東京都地域医療構想調整部会 : 高橋副会長

東京都エイズ専門家会議　：一瀬副会長

東京都健康推進プラン 21(第二次)推進会議　：小野常務理事

東京都障害者差別解消支援地域協議会　：山田副会長

外国人患者への医療等に関する協議会　：山田副会長

東京都アレルギー疾患対策検討委員会　：小野常務理事

自殺総合対策東京会議　：小野常務理事

東京都災害医療協議会　：貞松常務理事

精神疾患地域医療連携協議会　：篠原常務理事

東京都がん対策推進協議会　：篠原常務理事

東京都大気汚染医療費助成検討委員会　：根本常務理事

東京都救急医療対策協議会　：根本常務理事

東京都医療安全推進協議会　：篠原常務理事

医療情報に関する理解促進委員会　：篠原常務理事

東京都高齢者保健福祉施策推進委員会　：森田常務理事

東京都高齢者保健福祉計画策定委員会　：森田常務理事

東京都感染症医療体制協議会　：森田常務理事

東京都災害時こころのケア体制連絡調整会議　：森田常務理事

東京都災害時こころのケア体制連絡調整会議災害精神科医療体制作業部会
：三溝理事

東京都糖尿病医療連携協議会　：犬伏理事

東京都社会福祉審議会臨時委員(身体障害者福祉分科会)　：小林理事

東京都在宅療養推進会議　：高松理事

東京都特殊疾病対策協議会　在宅療養・医療連携支援対策部会　：高松理事

東京都難病対策地域協議会　：松本理事

東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議　：田極理事

東京都食品安全情報評価委員会「健康食品」による健康被害事例専門委員会
：松本理事

東京都がん対策推進協議会「計画推進部会」及び「緩和ケアワーキンググループ」
：松本理事

東京都結核対策技術委員会　：和田理事

【東京都病院経営本部】

東京都保健医療公社評議員　：永田会長

東京都都立墨東病院運営協議会　：濱野常務理事

東京都立東部療育センター運営協議会　：濱野常務理事

東部地域病院運営協議会　：和田理事

【東京都総務局】

東京都防災対策推進 WG(危機管理対策 WG ソフト対策) : 永田会長

【青少年治安対策本部】

東京都子供応援協議会 : 永田会長、上野副会長

【関連団体】

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問

: 永田会長

一般社団法人薬学教育協議会 WEB システム検討委員会 : 永田会長

社会保険診療報酬支払基金東京支部幹事会参与 : 永田会長

東京都社会保険診療報酬請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会

: 永田会長

東京都保険者協議会 : 山田副会長

公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事 : 山田副会長

OTC 医薬品普及啓発イベント

「よく知って正しく使おう OTC 医薬品」実行委員会 : 小野常務理事

日本薬学会関東支部市民講座企画委員 : 小野常務理事

東京都医師会 東京都多職種連携連絡会 : 根本常務理事

東京都後期高齢者医療懇談会 : 根本常務理事

東京都医師会 タバコ対策委員会 : 小野常務理事

東京都医師会 地域包括ケア委員会 : 濱野常務理事

東京都医師会 東京都糖尿病対策推進会議 : 犬伏理事

区西部緩和ケア推進事業運営委員会 : 高松理事

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構委員 : 田極理事

以上のとおり、会長はじめ各役員は本会執行部として業務の遂行に努めるとともに、東京都の審議会・協議会等の公的機関さらには社会保険・国民健康保険等の委員として、それぞれの機関の運営に参画し、薬剤師職能の充実に努めた。

第2 事業活動の概要

1. 薬剤師行動規範並びに薬事・医療関連法規の趣旨の周知と遵守の徹底

一般用医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備の周知・徹底を図るため、薬機法改正の動向に対応した資料を作成し配布すると共に各種講習会(薬事衛生自治指導員全体講習会、基準薬局中央研修会、地区薬剤師研修会、管理薬剤師研修会、薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会)など、機会を捉え情報発信に努めた。また同様に薬剤師としての倫理及び薬事・医療関連法規の趣旨の周知を図った。

2. 薬剤師職能及び薬局機能対策

2-1 薬剤師資質向上対策(薬学振興対策)

(1)「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施

患者や地域住民の医薬品の適正使用のみならず公衆衛生の向上及び健康な生活の確保のための情報提供や相談窓口となるなど「かかりつけ薬局」及び「かかりつけ薬剤師」の定着を図ることを目的に、平成12年度以来毎年「かかりつけ薬剤師研修会(平成28年度までの研修会名称は「かかりつけ薬局研修会」)を開催している。

【かかりつけ薬剤師研修会】(旧 かかりつけ薬局研修会)

令和3年度当会の各種研修会は、「すすめよう 都民のための地域連携」を活動テーマとし、かかりつけ薬剤師研修会を下記のとおり開催した。

開催日時：令和3年11月14日(日) 12:30～16:00

開催場所：有楽町よみうりホール

受講者：842名(内、会員外133名)

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 浅井 和範
東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

1. 開会挨拶

2. 喘息吸入療法の意義－基礎的知見を基に－

昭和大学病院 呼吸器・アレルギー内科 講師 井上 英樹

3. コロナ禍における吸入支援 ～明日からさっそく取り組める！病薬連携の重要性

東京品川病院 総合内科／呼吸器内科／健診センター

総合内科部長／総合健診センター長 森川 美羽

4. 吸入指導(支援)による薬局との地域連携

帝京大学医学部附属病院 薬剤部 前田 光平

5. シミュレーションソフトウェア Body Interact を用いた

呼吸器疾患の診断・治療の実際と処方設計～2.5次元の“リアル”を体験～

(2) 禁煙支援薬剤師認定制度の推進

平成 23 年 10 月より、e ラーニングを活用した都薬独自の禁煙支援薬剤師認定制度の運用を開始し、令和 4 年 3 月末時点で 498 名の受講申込があった。また、令和 3 年 8 月に第 18 回、令和 4 年 2 月に第 19 回認定審査会を開催した。これまでに禁煙支援薬剤師として計 169 名を認定した。

(3) e ラーニングの利用を含めた都薬独自の生涯学習プログラムの検討

平成 27 年から禁煙支援薬剤師認定制度に続く生涯学習プログラムとして、「認知症サポート薬剤師 e ラーニング講座」を都薬ホームページ上で運営している。

また、e ラーニング講座を受講した方を対象として、さらに学びを深め、認知症サポーターとしての知識を習得することを目指したスクーリングをこれまでに 5 回実施している。

(4) 日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)の利用推進

平成 24 年 4 月より、日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)がスタートした。平成 26 年 5 月には、JPALS のポートフォリオ(実践記録)の記載をより容易とするために「実践記録シート」を作成して都薬ホームページ上に掲載し、地区薬剤師会にもその活用を促している。本会で開催する主な講習会においては、プログラム等に JPALS コードを記載し、また、「実践記録シート」を配布するなど、JPALS 利用者の利便を図るよう努めた。

(5) 薬学講習会等各種講習会の開催

① 臨床薬学講座の開催：令和 3 年度の臨床薬学講座は、新型コロナウイルスの感染状況を勘案して、オンライン（Zoom）を用いたグループディスカッションなどの演習形式の研修会を少人数で 2 回開催した。

【第 1 回臨床薬学講座】

開催日時：令和 3 年 11 月 27 日(土) 15:00～18:50

開催場所：Zoom 配信（配信場所：東京都薬剤師会館 3 階会議室）

受講者：22 名

内 容：「オンライン服薬指導について学ぼう」

司会：東京都薬剤師会 理事

浅井 和範

東京都薬剤師会 学術委員会 委員 本多 美紀

・ 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

<講義>

1. 「デジタルトランスフォーメーション (DX)」について学ぼう

講師：東京都薬剤師会 学術委員会 委員 藪下 健太郎

2. 文献検索の方法について学ぼう

講師：東京都薬剤師会 学術委員会 副委員長 近藤 幸男

3. オンライン服薬指導のポイントについて

講師：日本薬剤師会 常務理事 高松 登

<演習>

オンライン服薬指導におけるロールプレイ

- ・ 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 篠原 高雄

【第2回臨床薬学講座】

開催日時：令和4年3月13日(日) 13:00～16:20

開催場所：Zoom 配信（配信場所：東京都薬剤師会館3階会議室）

受講者：17名

内容：トレーシングレポート作成について学ぼう

司会：東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

座長：東京都薬剤師会 理事 松本 雄介

- ・ 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

<講義>

1. 練馬総合病院における服薬指導提供書（トレーシングレポート）の現状と課題

講師：公益財団法人東京都医療保健協会 医療の質管理室 室長

練馬総合病院 安全管理室 金内 幸子

2. 吸入薬でトレーシングレポート

講師：ファーマライズ薬局 東十条店 黒木 宏隆

<演習>

「トレーシングレポート」の作成 (SGD)

- ・ 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 篠原 高雄

② 薬学講習会の開催

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症をテーマに薬学講習会を下記のとおり開催し、多数の参加を得た。また、薬局における医療安全管理については、微生物の特徴と感染症対策について講演が行われた。

なお、本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、できるだけ密を避けるためハイブリッド形式で実施した。

【薬学講習会】

開催日時：令和3年8月29日(日) 13:00～16:25

開催形式：「日本教育会館 一ツ橋ホール」及び「WEB 配信」

受講者：1,749名（会場受講者：323名、Web 受講者：1,426名）

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 松本 雄介

1. 挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 令和3年8月1日施行の薬機法改正などについて

東京都福祉保健局健康安全部薬務課統括課長代理（監視計画担当） 渡辺 大介

3. 新型コロナウイルスの治療・今わかっている最新の情報

国立国際医療研究センター 国際感染症センター総合感染症科医師 齋藤 翔

4. コロナ禍におけるメンタルヘルス・ファーストエイド（MHFA）

東京薬科大学 薬学部 客員教授 齋藤 百枝美

5. 医療安全管理講座/微生物の特徴と感染症対策－消毒薬を中心に－

東京薬科大学 臨床微生物学教室 PCR 検査センター長 教授 中南 秀将

③ 令和3年度基準薬局中央研修会の開催

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、集合研修及びオンライン研修により、7月に基準薬局中央研修会を下記の通り開催した。

【令和3年度基準薬局中央研修会】

開催日時：令和3年7月25日(日) 12:30～16:00

開催場所：日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者：1,201名

・集合研修 259名（内、会員外 13名）

・オンライン研修 942名（うち、会員外 33名）

内 容：

1. 挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 新型コロナウイルスと東京都薬剤師会

東京都薬剤師会 副会長 高橋 正夫

3. 地域包括ケアシステムにおけるケアマネジャーとの接点

～地域ケア会議及び新しい市域支援事業について～

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構

研究部主席研究員兼研究総務部次長／業務推進部特命担当 服部 真治

4. これからの医療・介護における薬剤師の役割

株式会社ニッセイ基礎研究所保険研究部主任研究員

ヘルスケアリサーチセンター・ジェロントロジー推進室兼任 三原 岳

5. 「後発医薬品洗濯の指針（内服薬）」と医薬品流通について

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

④ 東京都薬剤師認知症対応力向上研修の開催

認知症の早期発見や医療における認知症への対応力を高め、地域において薬局・薬剤師が認知症の人への支援体制構築の担い手となることを目的として、東京都の委託により開催している。今年度はコロナ禍を考慮してオンライン開催とし、下記のとおり 2 回に亘ってライブ配信を実施した。

【令和 3 年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第 1 回】

開催日時：令和 3 年 10 月 30 日(土)15:00～18:15

開催方法：ライブ配信（zoom ウェビナー）

受講者：543 名

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

1. 開会・主催者挨拶
東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
東京都福祉保健局 高齢社会対策部 在宅支援課 認知症支援調整担当 中島 有望

2. 認知症への基本的な理解
東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 塚原 俊夫

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について
社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団三鷹市大沢地域包括支援センター
センター長 香川 卓見

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること～薬学的管理と関係機関との連携～
東京都健康長寿医療センター 薬剤科 主任 谷古宇美佳

【令和 3 年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第 2 回】

開催日時：令和 3 年 11 月 21 日(日)9:00～12:15

開催場所：ライブ配信（zoom ウェビナー）

受講者：696 名

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

1. 開会・主催者挨拶
東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
東京都福祉保健局 高齢社会対策部 認知症対策担当課長 小林 由香子

2. 認知症への基本的な理解
東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 伊集院 一成

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること～薬学的管理と関係機関との連携～

東京都健康長寿医療センター 薬剤科 主任 谷古宇美佳

(6) 認定実務実習指導薬剤師の養成・更新 及び 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた実務実習の充実

薬学教育 6 年制課程における長期実務実習を適切に実施するため、受入施設及び学生を指導する指導者の資質向上と確保が重要であるとの認識のもと、安定した受入れ体制の維持を図ることを目的に、今年度も本会では、(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構(以下、関東地区調整機構)をはじめとする種々の教育関連機関と連携して各種事業を遂行した。

コロナ禍においても安定した受入れ体制の維持を図るために、関東地区調整機構の認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ開催計画に則り、下記のとおり「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」4 回を共催した。

また、関東地区 1 都 9 県合同の「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」(全 3 回)に、本会からタスクフォース 6 名(第 1 回 1 名、第 2 回 4 名、第 7 回 1 名)を派遣し、本会会員から受講者 19 名(第 1 回 9 名、第 2 回 5 名、第 7 回 5 名)が参加した。これにより平成 17 年度(2005 年度)より実施された認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)への本会会員の受講者数は今年度までに延べ 2,211 名となった。

なお、今年度も、本会が事務局を担当したワークショップにおいては、実習時のトラブルを事前に回避することを目的に本会が作成したリーフレット「ハラスメントのない実務実習(2021 年度改訂)」を資料として配布した。

関東地区調整機構が主催した、(公財)日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領に基づく、「認定実務実習指導薬剤師」の認定要件となる「認定実務実習指導薬剤師 養成講習会(講習会形式の研修講座①②③)」(全 2 回)に薬剤師 24 名(第 1 回 14 名、第 2 回 10 名)が参加した。

認定実務実習指導薬剤師資格の更新要件となる「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」修了証の有効期限を迎えた認定実務実習指導薬剤師を対象として、下記のとおり「認定実務実習指導薬剤師 更新講習会(講習会形式の研修講座④)」を開催した。また、関東地区調整機構主催の更新講習会へは受講者 16 名が参加した。

本会では、認定実務実習指導薬剤師のスキルアップ研修の継続的な実施が必要不可欠であると考え、昨年度に引き続き各エリアの指導的立場にある認定実務実習指導薬剤師

を対象とした「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ」を下記のとおり開催した。より質の高い実務実習の実施に向け、指導に係わる薬剤師全体のレベルアップを図るため、地区の指導者を養成することを目的に開催された本アドバンストワークショップには 27 名の認定実務実習指導薬剤師が参加した。

【第 5 回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和 3 年 9 月 11 日（土）8：50～19：15

令和 3 年 9 月 12 日（日）8：50～18：00

開催場所：帝京平成大学薬学部 中野キャンパス 3 階・4 階講義室

共 催：（公社）東京都薬剤師会／（一社）薬学教育協議会／

（一社）薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

関東地区調整機構 事務局長 伊東 明彦

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 7 名、

東京都病院薬剤師会 1 名、埼玉県薬剤師会 1 名

受 講 者：27 名(1P3S)

受講者内訳：各地区薬剤師会 15 名、東京都病院薬剤師会 9 名、

関東地区調整機構 3 名（千葉県薬剤師会 2 名、栃木県薬剤師会 1 名）

【第 8 回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和 3 年 9 月 11 日（土）8：50～19：00

令和 3 年 9 月 12 日（日）8：50～18：10

開催場所：帝京平成大学薬学部 中野キャンパス 4 階講義室

共 催：（公社）東京都薬剤師会／（一社）薬学教育協議会／

（一社）薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

関東地区調整機構 事務局長 伊東 明彦

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 7 名、

東京都病院薬剤師会 1 名、神奈川県薬剤師会 1 名

受講者：27名(1P3S)

受講者内訳：各地区薬剤師会 15名、東京都病院薬剤師会 9名、
関東地区調整機構 3名（千葉県薬剤師会 3名）

【第10回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和4年1月9日（日）8：50～18：50

令和4年1月10日（月・祝）8：50～17：50

開催場所：慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス 2号館
B1階実験室、1階・2階講義室

共催：（公社）東京都薬剤師会／（一社）薬学教育協議会／
（一社）薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 7名、
東京都病院薬剤師会 1名、栃木県薬剤師会 1名

受講者：27名(1P3S)

受講者内訳：各地区薬剤師会 10名、東京都病院薬剤師会 7名、関東地区調整機構 10名
（各県・病院薬剤師会(神奈川 3名、新潟、栃木、長野、千葉 各 1名)
日本保険薬局協会 3名）

【第11回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和4年1月9日（日）8：50～19：00

令和4年1月10日（月・祝）8：50～17：45

開催場所：慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス 2号館 1階・2階講義室

共催：（公社）東京都薬剤師会／（一社）薬学教育協議会／
（一社）薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

チーフタスクフォース：関東地区調整機構 指導薬剤師養成小委員会
委員長 小佐野 博史

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 6名、

慶應義塾大学 1 名、千葉県薬剤師会 1 名、
群馬県薬剤師会 1 名

受 講 者：27 名(1P3S)

受講者内訳：各地区薬剤師会 10 名、東京都病院薬剤師会 8 名、関東地区調整機構 9 名
(各県・病院薬剤師会(埼玉 2 名、神奈川 2 名、山梨、群馬、栃木、千葉
各 1 名)、日本保険薬局協会 1 名)

【認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

開催日時：令和 4 年 1 月 30 日(日) 13:00～15:15

開催場所：帝京平成大学薬学部 中野キャンパス 2 階講義室

受 講 者：48 名(内、受講証配布 47 名)

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子
2. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
3. 講座④－1「平成 25 年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)
講座④－2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)

一般社団法人薬学教育協議会

病院・薬局実務実習関東地区調整機構 浅井 和範

【より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ】

開催日時：令和 3 年 12 月 5 日(日) 13:00～18:15

開催場所：星薬科大学 百年記念館 2 階

共 催：(公社)東京都薬剤師会／

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 10 名

受 講 者：各エリアの指導的立場にある認定実務実習指導薬剤師 27 名(1P4S)

(7) 地区薬剤師研修会への支援と「都薬アワー」の実施

都内 28 地区ごとに、薬剤師を対象に年 2 回の研修会を実施した。研修は都薬アワー、臨床薬学講習、社会保険講習を中心に実施され、都薬アワーに講師を派遣するとともに開催経費の助成を行った。また、第 1 回目については社会保険講習の講師を派遣した。第 2 回目については、要望があった地区に社会保険講習の講師を派遣した。

第 1 回目の都薬アワーでは、本会の令和 3 年度活動テーマ「すすめよう 都民のため

の地域連携」を基にその活動重点項目について、都薬アワー講師が説明を行った。「薬機法改正」についての概要説明の他、「後発医薬品に関する流通及び対応状況に関する Web 調査」、「新型コロナワクチンに関する FAQ」「薬・薬連携推進事業-服薬情報等提供書（トレーニングレポート）等の活用-」「重複多剤服薬管理指導事業推進」について説明した。また、地域包括ケアにおいて地域で信頼される「かかりつけ薬剤師」としての評価に必要な問題解決型思考力が養成される東京都薬剤師会生涯学修プログラムについて解説を行った。

第 2 回地区薬剤師研修会では、「東京都薬剤師会 薬剤師生涯研修認定制度」「薬剤師へのタスクシフト」等について当会の取組み等を説明した他、「重複多剤服薬管理指導事業の推進について（残薬バッグ）」、「医療的ケア児に対する薬学的ケアについて」「地域連携薬局の現状と今後の方向性について」解説を行った。その際、統一テキスト及び配布資料を作成して研修を行った。

臨床薬学講習では主に在宅医療、緩和医療における多職種連携の中で、薬剤師が求められる役割を学習し、今後の医療連携についての意識の向上を図った。

開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料 2】のとおりである。本年度は 1 回目、2 回目共に 28 地区の開催となった。

また、直扱会員を対象に、都薬アワーの動画を、令和 4 年 3 月 25 日から令和 4 年 3 月 29 日の間にオンデマンドで配信し、39 名の直扱会員が受講した。

（8）学術倫理特別委員会の実施・運用

学術倫理特別委員会は、本会の会員が勤務する薬局、本会の地区職域薬剤師会、本会各委員会等の実施する医学薬学領域における調査・研究の倫理的妥当性を審査することを目的として、平成 26 年 11 月に設置された。

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」が統合されて 6 月から「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が施行され、統合された指針に従って審査を行った。令和 3 年度は審査申請が 3 件あり、1 件を承認した。

（9）重点項目「これからの薬剤師像を見据えた薬剤師生涯教育の充実」

令和 3 年度事業計画の重点項目である「これからの薬剤師像を見据えた薬剤師生涯教育の充実」に向け、本会に生涯学修プロジェクトを立ち上げ、生涯学修プログラムの策定に向けて検討を重ねた。また、同時に、本会の生涯学修プログラムをより公的な仕組みとするため、薬剤師の生涯学習と認定制度の第三者評価機関である、公益社団法人薬剤師認定制度認証機構（以下、CPC）の認証を取得すべく、新たに「研修認定推進室」を設置し、申請に向けて準備を開始した。また、本会の生涯学修プログラムを広く周知するた

め、「令和3年度第1回地区薬剤師研修会都薬アワー」において、生涯学修プログラムカリキュラムツリー等を用いて説明を行い、「令和3年度第2回地区薬剤師研修会都薬アワー」においては、本会がCPCの認証取得後に実施する、生涯研修認定制度の概要について説明を行った。

令和4年1月1日には、それまでの「研修認定推進室」を「生涯学修支援センター」に改編し、生涯研修認定制度の構築に向け準備を推進した。その結果、令和4年2月18日付け、本会の生涯研修認定制度の認証申請がCPCにおいて承認され、当該制度の実質的な運用を開始した。まず、認定研修開催申請の受付を開始し、本会が開催する、令和4年度調剤報酬改定伝達講習会（会場開催3回、ライブ配信1回）について、申請書類を基に審査を行い、本制度の認定研修として適正であると認め、認定単位（単位シール）を計1,364枚発行した。また、令和4年4月1日から、認定薬剤師の認定申請の受付を開始することとした。

2-2 薬局機能の充実対策

（1）地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の認定に向けた事業の実施と支援

令和3年8月から、地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の制度が施行され、このうち、専門医療機関連携薬局に関しては、令和2年より日本医療薬学会が「地域薬学ケア専門薬剤師制度」を発足し、基幹施設（病院）と連携施設（薬局）の連携により、良質な薬物療法を実践できる研修を履修する枠組みが構築された。

日本医療薬学会から本年度も各都道府県薬剤師会へ研修施設（基幹施設：病院）と研修希望者のマッチングに係る業務への協力依頼があったことから、マッチング調整作業を行った。地域薬学ケア専門薬剤師（副領域：がん）1名の基幹施設を決定した。

（2）健康サポート薬局の取得に向けた事業の実施と支援

（2-2 薬局機能の充実対策（9）健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会A及び研修会Bの実施と各地区での実施への支援）の項を参照。

（3）かかりつけ薬局育成事業の実施

（2-1 薬剤師資質向上対策（1）「患者のための薬局ビジョン」を踏まえたかかりつけ薬剤師育成事業の実施、（7）地区薬剤師研修会への支援と「都薬アワー」の実施、2-2 薬局機能の充実対策（7）地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備）の項を参照。

（4）基準薬局の認定・更新と判定基準の見直し

基準薬局制度はその発足以来、薬局並びに薬剤師による医薬分業と地域医療の推進の基盤を担ってきたが、平成27年3月末日をもって日薬による基準薬局制度は発展的に解消された。しかし、地域医療に貢献する医療提供施設として基準となる薬局の姿を社会に示し推進していくことは、これからも大変重要であると考えられるため、今後も本会として基準薬局制度を堅持していくこととした。これまでの日薬の認定基準に加え独自の基準を定めて、基準薬局中央研修会等を開催し、会員が勤務する薬局に対して認定取得の推進、指導を行ってきた。また、判定基準を令和2年度見直し、健康サポート薬局及び地域連携薬局を目指す薬局の第一歩として今年度更新を行った。「薬局の求められる機能とあるべき姿」に対応した認定基準により、令和3年度の基準薬局認定数は527薬局であった。

また、令和3年度基準薬局中央研修会を開催した(2-1(5)③「令和3年度基準薬局中央研修会の開催」の項を参照)。

(5) 実務実習受入れ態勢の整備

令和4年度に薬局実務実習受入れが決定している施設の指導薬剤師を対象とした「『令和4年度 実務実習受入薬局』伝達講習会」を下記のとおり開催した。なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、オンラインセミナーで実施した。

本講習会では薬学生を受入れるにあたり、各エリアや受入薬局で行う準備や注意事項の伝達を行うとともに、新型コロナウイルス感染症に係る実務実習に関する実習状況報告及び今後の基本方針の解説、並びに指導薬剤師が孤立せず、実習施設全員で実習生を受入れるための実務実習受入体制の整備について説明した。また、令和3年12月5日(火)に開催した「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ」報告を行った。(2-1(6)「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項を参照)。本講習会へは、令和4年度薬局実務実習受入薬局の指導薬剤師をはじめ、各地区の実務実習エリア責任者やエリア担当者、並びに各大学との情報共有を図る目的で関東地区24薬科大学・大学薬学部の薬局実務実習担当教員を招請し、多くの関係者に伝達した。

実務実習受入れ態勢整備の強化を図るため、各地区の実務実習エリア責任者・担当者を対象に、下記のとおり「薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議」(以下、エリア担当者会議)を開催した。なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、オンライン形式で実施した。エリア担当者会議では2023年度薬局実習受入施設調査について説明するとともに、都内10薬科大学・大学薬学部で学生の実習日誌から収集した「地域の保健・医療・福祉への参画」の実習事例を紹介した。また、令和3年12月5日(火)に開催した「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ」から、エリア担当者に向けたフィードバックを行った(2-1(6)「認定実務実習指導薬剤師の養

成・更新及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項を参照)。

令和元年度に設置した「都内大学との実習施設情報の共有と対応ワーキンググループ」では、本会と都内 10 薬科大学・大学薬学部間で実務実習終了後の実習情報を交換し、実習中のトラブルを早期に防止するための対応策の協議・検討を行った。

【「令和 4 年度 実務実習受入薬局」伝達講習会】

開催日時：令和 4 年 2 月 13 日(日) 9:30～12:30

開催方法：オンラインによるライブ配信

受講者：426 名(東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員を含む)

受講者内訳：各地区の令和 4 年度実務実習受入施設の指導薬剤師等 400 名、
関東地区 24 大学のうち 22 大学※の薬局実務実習担当教員 26 名

※ 参加大学：国際医療福祉大学、城西大学、日本薬科大学、
城西国際大学、千葉科学大学、東京理科大学、東邦大学、日本大学、
北里大学、慶應義塾大学、昭和大学、昭和薬科大学、帝京大学、
帝京平成大学、東京大学、東京薬科大学、星薬科大学、
武蔵野大学、明治薬科大学、横浜薬科大学、新潟薬科大学、
湘南医療大学

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 山田 純一
2. 実務実習状況報告と来年度方針～コロナ禍における実務実習の基本方針と
ポスト・コロナの実務実習に向けて～
一般社団法人薬学教育協議会
病院・薬局実務実習 関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
3. これからの時代の実務実習と大学教育との連携
東京都薬剤師会 実務実習委員会 副委員長 小佐野 博史
4. 実務実習受入に関する注意事項 東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子
5. 実務実習受入体制の整備～実習施設全員で実習生を受入れるには～
東京都薬剤師会 理事 田極 淳一
6. より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ報告
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 花井 祐一
7. 質疑応答 進行：東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 輿水 淳
8. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子

【薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議】

開催日時：令和4年3月3日(木) 19:00～20:30

開催方法：オンライン会議

出席者：地区薬剤師会役員、各エリア実務実習受入責任者・担当者 61名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
2. 薬局実務実習受入に関するエリア担当者へのお願い
東京都薬剤師会 理事 田極 淳一
3. 「地域の保健・医療・福祉への参画」の実習事例の紹介
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 岸本 桂子
4. より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップからのフィードバック ～エリア編～
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 花井 祐一
5. 質疑応答 進行：東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

(6) 薬局業務研修会の実施

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン研修により、医薬品の適正使用に係る内容で薬局業務研修会を下記の通り開催した。

【薬局業務研修会】

開催日時：令和4年2月23日(水・祝) 12:30～16:00

開催方法：Webを用いた配信

受講者数：763名(内、会員外30名)

内容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
2. 医薬品情報から薬物相互作用を読み取る
慶應義塾大学医学部 教授／慶應義塾大学病院 薬剤部長 大谷 壽一
3. 基剤・剤形から考える外用剤の選び方と使い方
公益財団法人佐々木研究所・杏雲堂病院 大谷 道輝
4. 皮膚の健康・皮膚が教えてくれるセルフメディケーション
東邦大学医学部 皮膚科学講座 客員教授 関東 裕美

(7) 地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備

昨年度に引き続き、令和3年度も「都内の薬局又は薬剤師に対し、在宅医療に関する知識・技能を有する人材の確保、地域連携促進に向けた体制構築、関係者との協力関係構築、地域住民に対するかかりつけ薬剤師・薬局機能の普及啓発を実施し、薬局・薬剤師の地域包括ケ

アシシステムへの参加促進を図る」ことを目的とした「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業」を東京都より受託した。

薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当国会議を開催して昨年度各地区薬剤師会が実施した事業の報告と本年度事業の説明を行い、各地区薬剤師会に事業の実施を依頼した。

また、地域における薬局薬剤師活用のための基盤整備や多職種連携を強化するとともに、在宅患者への訪問服薬指導に必要な知識を習得するため「在宅訪問ステップアップ研修会」を実施した。今後在宅業務に取り組む意思はあるが、実績が少ない薬剤師に向けた基本的知識や書式類、在宅で扱う医療材料の取り扱い等をわかりやすく解説する基礎研修と、栄養管理や緩和ケアなどより深い内容を盛り込んだ実践研修を計3回のZoom形式で開催した。第1回は「在宅における栄養サポートを学ぼう」(235名)、第2回は「在宅医療のはじめ方・基本的な知識を学ぼう」(249名)、第3回は「在宅における緩和ケアについて学ぼう」(239名)。前年度は「在宅医療ホップ・ステップ・ジャンプ研修会」名で同内容を各回定員50名で実施したが、令和3年度はいずれの回も4倍余の受講者が参加できた。

無菌調製技能習得研修では、これまでの「薬局・薬剤師在宅療養支援促進事業」と同様に、都内薬系2大学と協力して研修を実施した。今年度も、昨年度同様、従来からの無菌調製に関する基本的な知識・手技を行う基礎研修(1大学)に加え、今後の地域包括ケアシステムの実現に向けて、在宅における緩和ケア医療に関する基本的な知識や疼痛管理における輸液ポンプ操作等の手技を行うステップアップ研修(1大学)を実施した。

「薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当国会議」において事業概要の説明を行った後に各地区が計画に則り研修会を開催した。在宅訪問薬剤管理指導にかかる地域薬局連携のための研修会(Ⅱ-a1)は26地区で実施した。地域施設実地研修(Ⅱ-a2)では、無菌調剤室設置施設での実地調製研修を14地区で実施した。地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種連携連絡会(Ⅱ-a3)は25地区で実施した。地域包括支援センターと連携した地域住民向け講習会(Ⅱ-b)では、住民への啓発並びに連携促進を27地区薬剤師会が計画し、全27地区で実施した。多職種との連携促進のうち、関係者連絡会では3月の会議で年度活動結果を報告した。なお新型コロナウイルス感染症の影響で実施を断念した事業は以下のとおりである。(Ⅱ-a1 2地区)・(Ⅱ-a2 7地区)・(Ⅱ-a3 4地区)

地域薬局間連携研修と地域連携構築支援事業に関する開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料3】のとおりである。コロナウイルス感染症対策として、Zoom配信を活用したオンライン開催が多種多様に用いられ、計画数、実施数ともに参加地区数が昨年度より増加した。なお、開催を中止した事業については斜線を付した。

また、今年度より、新たな取り組みとして、服薬情報等提供書(トレーシングレポート)による保険薬局から医療機関へ積極的に服薬情報等を提供できる環境を整備して、患者の服薬状況等の一元的・継続的な把握を進め、質の高い医療の提供を目指すことを目的とした「薬薬連携推進事業」を開始した。本事業は、令和3年度から5年度にかけて全12医療圏(二次

医療圏)で行い、今年度は、下記の4医療圏(モデル地区)を選定し、薬局及び医療機関の担当者に対して、10月に説明会を開催した。また、3月の薬業連携関係者連絡会では、今年度の取り組みの結果について報告した。

	医療圏	対象地区
1	区中央部	千代田、中央、港、文京、台東
2	区西北部	豊島、北、板橋、練馬
3	区東部	墨田、江東、江戸川
4	北多摩南部	武蔵野、三鷹、府中、調布、小金井、狛江

【地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議】

開催日時：令和3年7月10日(土) 17:30～19:20

開催場所：TKP 神田ビジネスセンター H401

参加人数：47 地区 75 名

内 容：

- ・開会挨拶
東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男
東京都福祉保健局健康安全部 薬務課長 早乙女 芳明
- ・令和3年度 東京都委託事業について 東京都福祉保健局健康安全部 薬務課
事業連携担当課長代理 森田 貴教
- ・令和3年度地域包括ケアシステムにおける
薬局・薬剤師の機能強化事業、薬業連携推進事業について
東京都薬剤師会 理事 田極 淳一
- ・令和2年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業報告
墨田区薬剤師会 会長 浅尾 一夫
- ・令和2年度 薬業連携推進事業報告
すずかぜ薬局 佐藤 舞
- ・【討論】シンポジウム形式
座長：東京都薬剤師会 在宅医療支援事業 WG 委員長 添石 遼平
副委員長 前田 桂吾
- ・閉会挨拶
東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

【在宅訪問ステップアップ研修会】

<第1回 在宅訪問ステップアップ研修会>

開催日時：令和3年11月25日(木) 19:00～21:00

開催場所：東京都薬剤師会 4階会議室・Zoom ウェビナー

参加人数：235 名

研修内容：

- ・開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男
- ・講 義
「在宅高齢者と栄養管理」 株式会社大塚製薬工場 東京本社学術部
課長補佐 園田 景三
「病院の NST(栄養管理)について」 豊島病院薬剤科 薬剤科長 深野 光司
「薬局での栄養サポートの実際」
東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ 委員 勝野 純子
- ・閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

＜第2回 在宅訪問ステップアップ研修会＞

開催日時：令和3年12月2日(木) 19:00～21:00

開催場所：東京都薬剤師会 4階会議室・Zoom ウェビナー

参加人数：249名

研修内容：

- ・開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男
- ・講 義
「在宅医療の外部背景についての説明」 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
「はじめて在宅訪問する前に知っておきたいこと」 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
「在宅業務の実例について」 在宅医療支援事業ワーキンググループ 委員 會田 一恵
- ・閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

＜第3回 在宅訪問ステップアップ研修会＞

開催日時：令和3年12月9日(木) 19:00～21:00

開催場所：東京都薬剤師会 4階会議室・Zoom ウェビナー

参加人数：239名

研修内容：

- ・挨拶 東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男
- ・講 義
「医療用麻薬に関する基礎講座と病院薬剤師の緩和ケア治療への関わり」
慶應義塾大学病院 薬剤部 坂本 麻味
「在宅における緩和ケアへのかかわり」
東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ 副委員長 前田 桂吾
- ・総 評 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

【薬薬連携推進事業 担当者説明会】

開催日時：令和3年10月15日(金) 18:30～19:45

開催方法：Zoomを使用したWeb会議

参加者：94名(薬局担当者38名、病院担当者56名)

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

1. 開会の挨拶

2. 薬薬連携推進事業の目的について

東京都福祉保健局健康安全部薬務課事業連携担当 森田 貴教

3. 薬薬連携推進事業の運用の流れについて

東京都薬剤師会 常務理事 篠原 高雄

4. 昭和大学江東豊洲病院におけるトレーニングレポートの活用方法

昭和大学江東豊洲病院 薬剤部 喜田 昌記

5. Let's Try! レーシングレポート

サン薬局 山崎 敦代

6. 閉会の挨拶

東京都病院薬剤師会 副会長 清水 淳一

【薬薬連携推進関係者連絡会】

開催日時：令和4年3月28日(月) 18:10～19:50

開催方法：Zoomを使用したWeb会議

出席者：(委員)東京都医師会 理事

土谷 明男

東京都病院薬剤師会 常任理事 中小病院部部长

坂巻 誠

東京都病院薬剤師会 薬務薬制部 副部长

小林 秀樹

東京都病院薬剤師会 専門薬剤師養成部がん薬物療法専門薬剤師

養成小委員会 副委員長

清水 久範

東京都薬剤師会 副会長

山田 純一

東京都薬剤師会 常務理事

篠原 高雄

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 委員長

後藤 一美

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 副委員長

島田 淳史

(オブザーバー) 東京都福祉保健局健康安全部薬務課事業連携担当

森田 貴教

内 容：

1. 開会挨拶

2. 委員・出席者自己紹介

3. 東京都委託事業「薬薬連携推進事業」について

4. 東京都委託事業「令和3年度薬薬連携推進事業」アンケート調査結果について

5. 東京都委託事業「令和4年度薬薬連携推進事業」について

6. 閉会挨拶

【令和3年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 関係者連絡会】

開催日時：令和4年3月30日（水）17：00～19：00

開催場所：Zoomを使用したWeb会議

出席者：8名

（委員）	東京都看護協会 常務理事	佐川 きよみ
	東京都訪問看護ステーション協会 会長	椎名 美恵子
	東京都介護支援専門員研究協議会 理事	弓狩 幸生
	東京都薬剤師会 常務理事	根本 陽充
	東京都薬剤師会 理事	伊藤 威
（オブザーバー）	東京都福祉保健局健康安全部薬務課 統括課長代理	森田 貴教
	東京都薬剤師会 副会長	上野 浩男
	東京都薬剤師会 事務局長	芦野 研治

研修内容：

1. 挨拶
2. 委員・出席者自己紹介
3. 地域連携薬局・専門連携薬局について
4. 令和3年度地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業事例紹介
5. 令和4年度 東京都委託事業 新計画について
6. 質疑応答

【無菌調製技能習得研修会】

1. 星薬科大学

開催日時：令和3年10月17日（日） 10:00～17:10

開催場所：星薬科大学 第二新館 4階演習室、7階臨床実習室

参加者数：27名（これまでに「無菌調製技能習得研修会」を受講し修了証を有する者）

修了証授与数：27名

<講義>

司会：星薬科大学 教授 浅井 和範

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

1. 開講にあたって
東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課長 早乙女芳明
星薬科大学 学長 中西 友子
東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

2. 疼痛管理におけるPCAポンプの役割

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ 添石 遼平

3. 緩和医療の基礎知識
星薬科大学 実務教育研究部門 講師 鳥越 一宏

<実習>

1. 無菌調製の基本操作と持続注入ポンプの薬液調製

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ 前田 桂吾

2. CADD Legacy PCA ポンプの機能と操作方法

スミスメディカル・ジャパン株式会社 事業開発部

シニアマネージャー 鈴木 偉宏

3. 閉会式(統括・修了証の授与)

2. 帝京平成大学

2-1. 講義

開催日時：令和4年1月23日(日) 10:00～15:20

開催形式：オンライン配信

参加者数：117名

2-2. 実習

開催日時：令和4年2月6日(日) (A)9:30～14:10 (B)12:45～16:45

場 所：帝京平成大学中野キャンパス3階

参加者：計51名 ((A)25名 (B)26名)

内 容：

<1月23日(日) 講義>

司会：東京都薬剤師会 理事 田極 淳一

1. 開講にあたって

東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課長 早乙女芳明

帝京平成大学 薬学部長 亀井美和子

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

2. 在宅医療における無菌調剤の現状

東京都リハビリテーション病院 診療部 薬剤検査科長 越田 晃

3. 輸液の基本知識

株式会社大塚製薬工場 営業本部 学術部 園田 景三

4. 中心静脈栄養法(TPN)の基本

帝京平成大学 薬学部 准教授 島崎 学

5. 注射剤の混合調製を始めるに際して

帝京平成大学 薬学部 教授 清野 敏一

<2月6日(日)実習>

1. 318 調剤実習室

手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリンジの取扱い、
凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など

2. 313 無菌調剤実習室(手洗い・注射実習室：クリーンベンチ使用)

混合調製の実践(準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃)

3. 321/322 教室

総括・修了証授与

(8) 薬機法に対応した医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備等に関する周知徹底に資する資料提供

(8「薬事衛生・公衆衛生」事業(2)「『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施」の項を参照)

(9) 健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会A及び研修会Bの実施と各地区での実施への支援

平成28年4月に施行された健康サポート薬局については、薬局が健康サポート薬局である旨の表示を行うにあたり、厚生労働大臣が定める基準第三号で規定される常駐する薬剤師の資質に係る「要指導医薬品及び健康食品等の安全かつ適正な使用に関する助言、健康の保持増進に関する相談並びに適切な専門職種または関係機関への紹介等に関する研修」を全て受講した後に発行される研修修了証の添付提出が必須である。日本薬剤師会と日本薬剤師研修センターが共同で、厚生労働省が指定する第三者機関(指定確認機関)である(公社)日本薬学会から健康サポート薬局に係る研修の実施機関として確認を受けたことから、当会は、日本薬剤師会との共催で技能習得型《研修会A》並びに《研修会B》の開催協力を昨年度に引き続き行い、日本薬剤師会より発出された「健康サポート薬局に係る研修」通知文である「その56～64」の内容を把握し、地区薬剤師会に伝達した。

また、当会で《研修会A》並びに《研修会B》を各1回開催したほか、地域単位での《研修会A》を9回、《研修会B》を5回、開催の共催をした。《研修会A》は合計388名、《研修会B》は合計276名に対して規定に則り受講証明書を発行した。

なお、申し込み方法は、当会ホームページを活用した受講手続きを企画し、電子メールを用いて対応することにより正当かつ的確に事務処理を行った。

【令和3年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 《研修会A》】

開催日時：令和3年7月22日(木・祝)12:00～16:35

開催場所：連合会館 大会議室

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

自己評価表 受講前チェック

I. 開会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

II. 基本理念

3. 「健康サポート薬局の基本理念」(DVD)

日本薬剤師会 会 長 山本 信夫

日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典

4. 健康サポート薬局の理念～地域包括ケアに対応した薬局・薬剤師

東京都薬剤師会 生涯学習委員会委員 塚原 俊夫

Ⅲ. 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状

5. 東京都の健康課題と健康増進施策～健康サポート薬局への期待～

東京都福祉保健局 保健政策部 健康推進課長 鈴木 祐子

6. 東村山市における薬剤師との連携

東村山市基幹型地域包括支援センター 在宅医療コーディネーター 宮内 諒

7. 練馬区における保険薬局等との連携について～地域包括ケアシステムの確立に向けて～

練馬区 高齢施策担当部 高齢者支援課 地域包括支援係 係長 山田 伸介

8. 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG委員 保坂 洋二

Ⅳ. 演習

東京都薬剤師会 生涯学習委員会委員 伊集院 一成

Ⅴ. まとめ

東京都薬剤師会 理事 田極 淳一

Ⅵ. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

(応募・出席状況)

区分	人数
一般	21
会員	91
応募者計	112

出席・レポート提出 (受講証明書発行数)	一般	20	109
	会員	89	
欠席	一般	1	3
	会員	2	
応募者計			112

【令和3年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 《研修会B》】

開催日時：令和3年6月12日(土)15:00～20:00

開催場所：ベルサール神田 Room1+2+3+4

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

自己評価表 事前チェック

Ⅰ. 挨拶

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

Ⅱ. 薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局

東京都薬剤師会 生涯学習委員会委員長 齋藤 公子

Ⅲ. 演習「薬局利用者の状態把握と対応（演習）【頭痛】」（DVD 講義）

講師：昭和大学医学部理学講座 医科薬理学部門 教授 木内 祐二

演習進行：東京都薬剤師会 理事 宮川 昌和

Ⅴ. まとめ

東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

Ⅵ. レポート作成

(応募・出席状況)

区分	人数
一般	39
会員	86
応募者計	125

出席・レポート提出 (受講証明書発行数)	一般	37	122
	会員	85	
欠席	一般	2	3
	会員	1	
応募者計			125

なお、地区における開催地域及び研修会の参加人数等は【資料 4】のとおりである。

(10) 登録販売者研修会の実施及び今後のあり方の検討

平成 24 年度より一般用医薬品の販売に従事するすべての登録販売者に対し、毎年 12 時間以上の外部研修を受講することが義務化された。これを受け、会員が勤務する薬局並びに店舗販売業に従事する登録販売者を対象に、外部研修実施機関としてガイドラインに沿ったカリキュラムを基に、令和 3 年度登録販売者研修会を下記のとおり開催した。

令和 2 年度同様、コロナ禍での開催を理由に Web を用いた開催方法が認められたことから、12 時間の研修をすべてオンデマンド配信により開催を実施した。12 時間を 3 回に分け、1 回につき 4 研修分を配信し、修了証発行者数は 91 名であった。(申込者 92 名)

また、登録販売者検討委員会において、今後の外部研修のあり方について検討を行った。

【令和 3 年度 登録販売者研修会】

< 1 回目 >

開催日時：令和 4 年 1 月 20 日(木)10:00～令和 4 年 2 月 2 日(水)23:59

開催方法：オンデマンド配信

主 催：東京都薬剤師会

内 容：

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 挨拶 | 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造 |
| 2. 登録販売者に求められるコミュニケーション | 東京都薬剤師会 理事 和田早也乃 |
| 3. 薬機法の一部改正等について | 東京都薬剤師会 理事 和田早也乃 |
| 4. セルフメディケーションとセルフケア | 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威 |
| 5. 皮膚疾患と一般用医薬品の外用剤について | 東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫 |

< 2 回目 >

開催日時：令和 4 年 2 月 3 日(木)10:00～令和 4 年 2 月 16 日(水)23:59

開催方法：オンデマンド配信

主 催：東京都薬剤師会

内 容：

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 添付文書について | 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威 |
| 2. アンチ・ドーピングについて | 東京都薬剤師会 理事 小林 百代 |
| 3. 解熱鎮痛剤について | |

新型コロナウイルス抗原検査キットの適切な取り扱い

東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

4. 漢方薬におけるアレルギーと皮膚症状に関するものについて

<3 回目>

開催日時：令和4年2月17日(木)10:00～令和4年3月2日(水)23:59

開催方法：オンデマンド配信

主 催：東京都薬剤師会

内 容：

- | | |
|------------------------------------|------------------|
| 1. 薬局で扱う「健康食品」について | 東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫 |
| 2. 情報の取得と活用について | 東京都薬剤師会 理事 石川さと子 |
| 3. 薬歴に記載する必要があるヒヤリ・ハット事例と副作用報告について | 東京都薬剤師会 理事 三溝 学 |
| 4. 漢方講座 五行説について | 東京都薬剤師会 理事 田極 淳一 |

(1 1) 後発医薬品の使用促進と後発医薬品データベースの充実

後発医薬品の安定供給については、本会の会員等から寄せられた苦情などの情報を収集し、厚生労働省医政局経済課にその都度情報提供を継続して行っている。例年は2～30件程度の情報数であったが、令和2年度に発生した大手医薬品製造メーカーによる事件を発端に後発医薬品の供給停止や出荷調整が相次ぎ、市場の供給体制に大きな支障が生じ代替品の確保もままならない状況が令和3年度も継続した。政府の掲げる後発医薬品使用率80%に向けさらなる使用促進に取り組んでいる薬局からは、市場混乱による支障はもとより患者の病状悪化を案じる意見等246件の情報が寄せられ、厚生労働省並びに日本薬剤師会に情報提供を行った。

また、このような状況に鑑み、薬局における医薬品の不足状況や使用率等に関する調査アンケートを3回実施し、公表した。

令和3年6月「後発医薬品に関する流通及び状況に関する調査」 1,520通

令和3年8月「第2回 後発医薬品に関する流通及び対応状況に関する調査」 1,057通

令和3年9月「後発医薬品調剤体制加算に関する調査」 938通

後発医薬品比較サイトの登録医薬品データの更新及び「薬価基準新規収載品」の追加登録を行い、最新情報の提供に努め、第13回目となる地域医薬品使用実態調査から得られた個々の後発医薬品の調剤回数を本サイトデータに反映した。

また、昨年度作成した集計ソフトを用いて薬局の後発医薬品採用銘柄の選定指標（メーカー、原産国、「地域医薬品使用実態調査」及び全国健康保険協会の使用実績を加味した指標）データを整理した。

(1 2) 高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修の実施

平成18年度より高度管理医療機器等営業所管理者等に年に一度継続研修が義務付け

られている。令和3年度も実施機関の認可を得ている日本薬剤師会と共催して継続研修会を開催し、受講者に修了証を発行した。

なお、厚生労働省より昨今の社会情勢に鑑み、今後、インターネット等を利用した方法での講習等の実施が認められたことから、今年度も新型コロナウイルス感染防止対策のため、Webを用いた配信による開催とした。

【高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修会】

開催日時：令和4年1月27日(木)～2月2日(木)

開催方法：Webを用いたオンデマンドによる配信

内 容：

＜日本薬剤師会作成のコンテンツを利用＞

1. 薬機法その他薬事に関する法令

公益財団法人 医用機器センター 常務理事 新見 裕一

2. 医療機器の品質管理

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 販売・保守委員会 委員 浦富 恵輔

3. 医療機器の不具合報告及び回収報告

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 PMS 委員会 委員 三田 哲也

4. 医療機器の情報提供

公益財団法人 医療機器センター 医療機器産業研究所 主任研究員 本田 大輔

当日資料：令和3年度継続研修テキスト(医療機器センター)

申 込 数：1,950名(基準薬局の会員357名・会員1,446名・会員外147名)

修了者数：1,930名

東京都 1,624名、神奈川県 105名、埼玉県 109名、千葉県 83名、
茨城県 4名、栃木県 1名、群馬県 1名、山梨県 1名、静岡県 1名、
大阪府 1名

(13) 地域医薬品使用実態調査の実施

東京都内において処方箋により交付されている医薬品の使用実態、すなわち交付された医療用医薬品の医薬品名、調剤回数、調剤数量及び備蓄薬局数並びにその医薬品がどのような特別な作業を伴う調剤(例えば、自家製剤、計量混合及び一包化など)あるいはどのような薬学的管理(薬剤服用歴管理指導、かかりつけ薬剤師指導、各種情報提供、在宅患者訪問薬剤管理指導など)を伴って患者に交付されたかなど、地域における医薬品の使用実態と調剤実態を明らかにすることを目的として第13回目を実施した。

さらに、後発医薬品の使用実態を明らかにし、過去のデータと比較することで後発医薬品使用の進捗状況を把握するとともに、都民への後発医薬品に関する正しい知識の普

及と安定供給のための基礎資料を得ることを目的とした。

電子媒体で調剤報酬を請求する薬局を対象とし、地区薬剤師会が区市ごとに保険薬局数の 1/5 に相当する任意に選定した薬局、都内全体では 1,200 薬局を調査対象とした。

調査対象月及び対象者は、令和 3 年 10 月調剤分の被用者保険、国民健康保険及び後期高齢者医療保険の加入者とし、調査対象薬局の電子レセプトデータから“患者”及び“調剤した薬局”並びに“処方箋発行医療機関”にかかわる一切の個人情報と電磁的に削除した医薬品等に関するデータのみを抽出し、解析用データとした。(7.(4)「後発医薬品の備蓄に関する情報提供」の項を参照)

(14) ICTの適正な活用に向けた体制整備

(3-1.(3)「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討の項を参照)

(15) 医薬品流通のための連絡協議会の開催

例年、東京都医薬品卸業協会の役員と当会役員で協議を行っているが、令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の緊急事態宣言の発令及び感染拡大防止対策等の取組み状況下にあつて、開催を見送った。

(16) オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤にかんする研修会の実施

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策及びオンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に対応できる多くの薬剤師を養成するため、集合研修に加え、Web を用いた配信による開催により、オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会を下記の通り開催した。

【オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会】集合研修

開催日時：令和 3 年 12 月 5 日(日) 13:00～16:35

開催場所：日本教育会館 一ツ橋ホール

申込者数：260 名(内、会員外 107 名)

修了者数：238 名(内、会員外 101 名)

内 容：(一部、日本薬剤師会作成動画 DVD を使用)

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
2. オンライン診療の適切な実施に関する指針と緊急避妊薬の調剤について (DVD 視聴)
日本薬剤師会 常務理事 豊見 敦
3. オンライン診療に伴う緊急避妊薬処方上の留意点
 - (1) 月経、月経異常、ホルモンの調節機序
 - (2) OC 全般と避妊法

- (3)緊急避妊全般 江東病院 産婦人科部長
公益社団法人日本産婦人科医会 常務理事 宮崎 亮一郎

4. 質疑応答

5. 「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について」

- (1)薬局での調剤の手順について (DVD 視聴)

日本薬剤師会 常務理事 亀井 美和子

- (2)患者対応等について (DVD 視聴)

一般社団法人日本女性薬剤師会 副会長

薬剤師生涯センター「性の健康」検討委員会 委員長 小宮山 貴子

6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高橋 正夫

【オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会】Web 研修

開催日時：令和4年3月18日(金)～3月25日(金)

開催方法：Webを用いたオンデマンドによる配信

申込者数：422名(内、会員外 233名)

修了者数：3月27日現在、268名(内、会員外 148名)(継続審査中 125名)

内 容：

＜令和3年12月5日に開催時の撮影動画及び日本薬剤師会作成動画DVDを利用＞

1. オンライン診療の適切な実施に関する指針と緊急避妊薬の調剤について

日本薬剤師会 常務理事 豊見 敦

2. オンライン診療に伴う緊急避妊薬処方上の留意点

- (1)月経、月経異常、ホルモンの調節機序

- (2)OC全般と避妊法

- (3)緊急避妊全般 江東病院 産婦人科部長

公益社団法人 日本産婦人科医会 常務理事 宮崎 亮一郎

3. オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について

- (1)薬局での調剤の手順について 日本薬剤師会 常務理事 亀井 美和子

- (2)患者対応等について

一般社団法人 日本女性薬剤師会 副会長

薬剤師生涯センター「性の健康」検討委員会 委員長 小宮山 貴子

(17) 小児在宅医療（医療的ケア児）に必要とされる薬剤師の育成

2016年の「児童福祉法」の改正及び近年の小児医療技術の進歩に伴い、医療的ケア児がその心身の状況に応じた保健・医療・福祉分野の連携した支援を受けて在宅生活へ移行するケースが増加している。また、より実効性の高い「医療的ケア児及びその家族

に対する支援に関する法律」が本年 6 月 18 日に公布され令和 3 年 9 月 18 日より施行された。日本薬剤師会が実施した医療的ケア児の処方応需に関する実態調査からは、対応している薬局の約 4 割は面対応薬局であることが明らかとなっており、在宅で薬物療法を行う医療的ケア児への支援拡充に向けた、より一層の取組みが期待されている。

令和 3 年度に、厚生労働省『令和 3 年度成育医療分野における薬物療法等に係る連携体制構築推進補助事業』を受託し、医療的ケア児への薬物療法に参画する薬剤師への支援や、地域に於ける連携体制構築を目的とした Web 研修会(シンポジウム)を開催した。世田谷・玉川砧 両薬剤師会の協力のもと、世田谷区における在宅小児療養者の現状や医療機関等と薬局及び薬局間の連携体制構築に向けた内容とした。

【小児在宅医療（医療的ケア児）に必要とされるかかりつけ薬剤師育成研修会】

開催日時：令和 4 年 1 月 23 日(日) 13:00～16:00

開催場所：東京都薬剤師会館 3・4 階会議室・Zoom ウェビナー

受講者：239 名

- 内 容：
- 司会：東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子
- ・挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
 - ・基調講演：小児在宅医療（医療的ケア児）の疾患・病態の理解を深める
～薬剤師の医療的ケア児への理解と小児在宅医療での役割～
国立成育医療研究センター 総合診療部 在宅診療科 部長 中村 知夫
＜シンポジウム＞
 - ・世田谷区における医療的ケアを必要とするお子さんへの支援について
世田谷区 障害福祉部 障害保健福祉課 障害保健福祉担当 横川 美江子
 - ・小児在宅医療に必要とされるチーム医療の在り方（退院支援）
国立成育医療研究センター医療連携・入退院支援センター 看護師 栃谷 治子
 - ・医療的ケアのある小児の訪問看護 社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団
訪問看護ステーションけやき 八文字 あけみ
 - ・小児在宅医療に必要とされるチーム医療の在り方（薬・薬連携）
国立成育医療研究センター 薬剤部 詫間 梨恵
 - ・小児在宅医療に必要とされるチーム医療の在り方（薬・薬連携）
東京都薬剤師会 理事 小林 百代
 - ・総合討論 座長：東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

2－3 医薬分業対策

（１）次世代の薬剤師・薬局を養成するための施策の検討

患者本位の医薬分業の実現に向けた「患者のための薬局ビジョン」を実現し、かかりつけ薬剤師・薬局の推進を図るための一方策として、日本薬剤師会は平成 30 年度より、将来の地域の指導的立場を担う薬剤師の育成を行うこと等を目的とした「次世代薬剤師研修会」を実施している。また、薬剤師がかかりつけ薬剤師としての役割を果たすために必要な研修の指標となるよう「研修シラバス」を作成している。これらを踏まえ、研修会テーマの検討を行い、研修会を企画・開催した。

2-4 地域医療対策

(1) 東京都の保健医療計画等各種計画への積極的な対応

各協議会等に委員として参画し意見するとともに、薬局・薬剤師の役割が計画に反映されるよう働きかけた。

(2) 東京都保健医療計画に対応する二次医療圏連絡協議会への参加と協力

地域保健医療協議会に委員が参加し、地域医療の課題への対応を協議するとともに、チーム医療の中で、薬局・薬剤師が役割を果たせるよう連携体制の構築に努めた。

(3) 切れ目のない薬物療法の提供に向けた薬・薬連携の推進

今年度は、東京都委託事業「薬薬連携推進事業」において、トレーニングレポートによる保険薬局から医療機関へ積極的に服薬情報等を提供できる環境を整備した。

2-2 薬局機能の充実対策、(7) 地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備 の項を参照。

2-5 医療安全対策

(1) 薬機法等改正に伴う体制の整備

薬局における医薬品の業務に係る医療の安全を確保するための基本理念及び安全確保に関する具体的方策等の周知徹底を図るために、薬学講習会において「医療安全管理講座/微生物の特徴と感染症対策－消毒薬を中心に－」の講習を行った。

(2) 薬局版ヒヤリ・ハット事例収集分析事業への協力と薬局登録及び報告促進等調剤事故防止対策の徹底

調剤報酬における特掲診療料の「地域支援体制加算」の施設基準では、実績要件に、疑義照会により処方変更がなされた結果、患者の健康被害や医師の意図した薬効が得られないことを防止するに至った事例を提供した実績を、薬局機能情報提供制度において「プレアボイド事例の把握・収集に関する取組」として「有」とすることが求められている。

このことにより、日本医療機能評価機構が運営するヒヤリ・ハット事例報告登録薬局に登録し事例を報告する参加薬局は年々増加をしている。2021 年 12 月末日現在の都内参加薬局数は、4,862 件(参考：2020 年 12 月 4,632 件・2019 年 3,694 件・2018 年 1,064 件)となった。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業第 24.25 回報告書及び 2020 年度年報を地区薬剤師会へ周知した。

直近の第 25 回報告(報告期間 2021 年 1 月～6 月)において、事業参加登録は 41,948 薬局、調剤に関して 9,849 事例、疑義照会に関して 45,821 事例、他計 55,000 余事例が報告されている(参考：2020 年比較 39,261 余薬局、調剤 5,520 事例、疑義照会 18,000 余事例、他計 23,000 強の事例)。

ほかに、医療事故収集等事業の「医療安全情報」No.173～No.184 と報告書第 64～67 回の薬剤関連部分や、日本薬剤師会に報告された調剤事故事例(令和 2 年度版)を情報提供し、薬局における事故未然防止の周知を図った。

(3) 調剤過誤発生後の的確な対応と弁護士紹介

平成 27 年に医療事故調査制度が施行され、東京都に設立された医療事故調査等支援団体連絡協議会が公表した提言を回覧した。

調剤過誤でトラブルとなり相談のあった件について顧問弁護士への相談の橋渡しを行った。

(4) 東京都医療安全支援センターへの協力

令和 3 年度中に薬局・薬剤師に対する苦情は 5 件受付けている。苦情の内容として、個人情報に関すること、調剤ミス、調剤報酬、医薬品の供給不足に関連すること、その他各 1 件であった。

(5) 使用済み注射針回収事業の継続と今後のあり方の検討

使用済み注射針回収事業は東京都全域の地区薬剤師会で実施継続されている。事業開始以来 20 余年が経過し、患者や地域住民、地域行政にも事業の意義が広く浸透している。

令和 3 年度は、回収専用容器を 18 万個作成し、地区薬剤師会あるいは地区薬剤師会の事業を支援する行政に対して 1 個あたり 110 円にて有償頒布を行うとともに、医薬品空容器を使用済み注射針回収容器として再利用するための専用シール、容器封緘シールを作成・配布した。また、新規参加薬局 92 件に対しても事業参加支援を行った。また、都内全域で 17 万 7 千本強(昨年度より 3.1%増加)の容器が回収されたとの報告を地区薬剤師会より受けた。

なお、当会で発送を依頼していた業者の変更に伴い、10月より商品代金の送金方法について、従来の代金引換決済から銀行振込へ変更した。

（６）薬剤イベントモニタリング（DEM）事業への協力

DEM事業は、日本薬剤師会において2002年度より、薬局が医薬品の適正使用に一層貢献することを目的として実施されている事業である。

今年度は前年度同様、新薬として薬価収載されて1年が経過し、長期投薬が可能となって広く使用されるようになった医薬品（新薬4品目、比較薬4品目、計8品目）を対象として調査が実施され、調査対象医薬品を使用した方に発生したイベント内容並びにその発生が新薬と比較薬の間で異なるか等について調査が行われた。なお、本事業は6月に施行された「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき実施されている。

DEM事業の実施にあたり、地区薬剤師会を通じて、DEM事業周知のための薬局用説明書等を薬局に配布し、データ収集への協力を呼びかけた。また、本会ホームページに日本薬剤師会が用意した報告画面へのリンクを作成するなど適宜整備を行った。

２－６ 規制改革等への対策

（１）医薬品情報等の電子化に向けた対応

（２－７（３）「安全・適正な医薬品使用のための「お薬手帳・電子お薬手帳」普及啓発」の項を参照）

（２）休日・夜間等における医薬品供給体制の整備・拡充

今年度新たに開設された休日薬局はなく、支援も行わなかった。なお、地区では地域住民への休日対応薬局の情報提供は例年どおり行っている。

（３）日本薬剤師会の施策に対応した対策の検討

日薬の施策・事業に対し、理事会や各委員会等で協議・検討し、研修会や地区職域薬剤師会会長会等を通じて広く周知を図り、各施策に協力した。

２－７ 都民への広報対策

（１）健康サポート薬局の役割、かかりつけ薬剤師・薬局の役割等、各種事業の都民への周知

【都民向けイベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」】

例年参加している OTC 医薬品啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」が、第 14 回となる本年はコロナ禍での開催であるためオンラインとリアルを併用したハイブリッド開催となった。開催に際して、オンラインでは事前質問に回答した人に対し医薬品のサンプルを郵送することとなり、本会は対面でない医薬品サンプルの配付方法には賛同できないことから、本会として参加を見送った。

(2) 安全・適正な医薬品使用のための情報提供

【令和 3 年度 東京都重複多剤服薬管理指導事業】

「東京都国民健康保険運営方針」では、被保険者の健康保持増進及び医療費適正化の観点から、重複多剤服薬患者に関して被保険者に対する保険指導や残薬解消を目指す取組により適正服薬の促進が求められているが、都内区市町村での取組には未実施地域が多く課題が山積している。

令和 3 年度も、東京都より標記事業の委託を受けて、国民健康保険の被保険者の健康保持増進及び医療費適正化を推進することを目的として、関係機関と連携し、区市町村が行う重複多剤服薬者に対する服薬管理・指導等の支援を行うとともに、被保険者の医薬品適正使用に対する意識向上を図る事業を実施した。

① 重複多剤服薬管理指導(モデル事業)

令和 3 年度は、前年度実施した荒川区に加え、大田区、中野区、八王子市の 4 区市及び本会が共同で実施した。事業の実施に際し、6 月 16 日(火)と 7 月 13 日(火)の計 2 度の打ち合わせ会を 4 区市の関係者と合同で開催し、事業目的、実施手順、事業の進捗について情報共有を行った。

モデル区市町村において服用医薬品数が一定以上の患者や複数の医療機関で処方を受けている患者等を本事業の対象者として抽出し、参加同意を得られた患者に対し、各地区薬剤師会の薬局による服薬管理指導を実施した。服薬管理指導実施件数は 45 件であった。

事業実施地区の増加もあり、前年度の服薬管理指導実施件数 2 件から大幅に対象患者の抽出が増加した。本事業は 3 カ年計画の事業であり、令和 4 年度が最終年度となるため、より多くの地区で本事業を展開していく事を次年度の課題とした。

(実施期間：令和 3 年 9 月から同年 12 月まで)

	荒川区	大田区	中野区	八王子市	計
薬剤服用歴管理指導票(様式 A)	1	4	6	34	45
服用薬剤管理指導報告書(様式 B)	0	4	6	31	41
服薬相談薬剤管理実施報告票(様式 C)	1	4	6	34	45

② 医薬品適正使用意識啓発

東京都より標記事業の委託を受けて、国民健康保険の被保険者に対し、医薬品適正使用について説明したリーフレット(A4 版二つ折り・A5 版)を 32 万部印刷し、薬局を経由して重複多剤服用者等各薬局が残薬管理や指導が必要と思われる 40 歳以上の患者を対象に配付した。配布リーフレットには QR コードを記載して WEB アンケートを実施し、患者の医薬品の服用実態等を集計した。アンケートの回答数は 326 件(男性 142 人 44%、女性 184 人 56%)であった。回答方法がリーフレット記載の QR コードの読み取り形式のため、回答数は限られたものであったが服薬実態の把握という点で大きな成果が得られた。

また、国民健康保険の被保険者が薬局に残薬を持参できる残薬バッグを 10 万個作成し、各地区薬剤師会を通じて残薬バッグ配布事業の参加薬局の募集を行った。応募薬局 3,289 薬局では、55 歳以上の患者を対象に 12 月から 1 月にかけて残薬バッグの配布を実施した。併せて応募薬局に残薬バッグ使用前後の薬剤料や残薬理由(残薬の理由：飲み忘れ・飲み間違い・自己判断で中止・新たな薬の処方・複数機関から重複処方・受診間隔のずれ・他)を記載した重複多剤服薬シミュレーションシートを配布し提出を依頼した。期限までに 436 件(13.3%)の提出を受けた。

なお、重複多剤シミュレーションシートの記載期間が令和 4 年 1 月の一ヵ月と短期間であったこと、時期的に新型コロナウイルス感染症の第 6 波による患者の受診控え等、来局患者数減少の影響を受けて残薬バッグによる回答集計率は少数に留まった。

当該シミュレーションシートに別記した患者服用薬に対する残薬調整・重複多剤解消による削減金額欄の記載及び提出も依頼したところ、回答薬局は 267 件、対象患者数は 1,774 人であった。また、削減金額の総額は 7,007,950 円であり、対象患者 1 人当たりの削減金額は 3,950 円という値が得られた。

参考【残薬バッグ配布等の理由集計】回答 3,289 薬局

性 別 男性 2,001 名 44.2% 女性 2,530 名 55.8%

残薬の理由(回答数)	・ 飲み忘れ	3,114 件
	・ 受診間隔のずれ	821 件
	・ 自己判断で中止	668 件
	・ 飲み間違い	299 件
	・ 特になし	271 件
	・ 薬剤が重複	267 件

(3) 安全・適正な医薬品使用のための「お薬手帳・電子お薬手帳」普及啓発

平成 28 年 4 月より施行された「健康サポート薬局」の基準に、かかりつけ薬局としての基本的機能におくすり手帳の活用が明記された。

各薬局が安全・適正な医薬品使用のための都民への情報提供に積極的に取り組めるよ

う、改訂版を新規で作成し頒布した(1.3万冊(前年度約1.3万冊、一昨年度約1.1万冊))。

また、薬と健康の週間では薬局及び地区で開催された街頭相談所において、カレンダー付き地下鉄路線図に啓発内容(お持ちください おくすり手帳)

(「おくすり手帳」は、おくすりを安全に使うためのあなたの大切な記録帳です。)をイラストつきで印刷し配布した。

3. 医療保険対策

3-1 医療保険対策

(1) 医療保険等関連情報の収集と伝達

調剤報酬の請求等に関する質問については随時回答し、適正な調剤報酬の確保に務めた。なお、下記の質問受付回数は計2,100件を上回った。

また、各種の医療保険関連通知、制度改正などはその都度地区薬剤師会に伝達した。

【月別質問件数】

月	質問件数	月	質問件数	月	質問件数
4月	228	8月	200	12月	209
5月	112	9月	148	1月	230
6月	154	10月	145	2月	226
7月	159	11月	101	3月	279

関東信越厚生局管内10都県薬剤師会社会保険担当者協議会は、年1回1都9県持ち回り開催しており、令和3年度は千葉県薬剤師会が主催し、35名が出席した。令和4年2月23日開催のWeb会議に、医療保険担当役員2名(傍聴1名)、医療保険委員1名が出席した。

(2) 適正な保険請求業務の指導

【レセプトオンライン代行請求支援】

平成21年5月請求時からオンライン請求の義務化が実施されたが、オンライン回線敷設が困難な薬局を支援するため代行請求業務を継続している。令和3年度も2保険薬局に対し令和3年7月請求分まで代行請求サービスを継続したが、利用2保険薬局より令和3年8月請求分からの代行請求サービス中止の連絡を受けたため、レセプトオンライン代行請求支援を終了した。

（３）「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討

令和４年４月から実施される調剤報酬改定に係る算定要件の内容等を解説した「国民健康保険調剤必携」を発行した。調剤報酬点数とその算定要件、療養担当規則等の改正点、調剤報酬明細書記載要領等について掲載し、地区薬剤師会を通じて保険薬局に配布し適正な請求の確保を図った。

また、調剤報酬点数表一覧を作成し、患者が閲覧できる「薬局内の掲示物」として、地区薬剤師会を通じてすべての保険薬局に配布を行った。

（４）薬剤師の倫理観の醸成

令和元年度より管理薬剤師を対象として、薬剤師が社会に対して果たすべき責務、管理薬剤師に求められる薬局管理のあり方や法令遵守事項等について解説する研修会を東京都との共催で実施している。

令和３年度は対象者を更に広げ、都内薬局に従事する薬剤師に対し、今般の薬剤師の役割の変化を踏まえ、それに対する気づきや行動変容を求める内容で東京都との共催により都内２会場で開催した。

なお、開催に際し、新型コロナウイルス感染症対策として会場収容人数に対して入場者数を半数以下に押さえ、両隣席を空けて「密にならない」環境を整え、会場内各所の次亜塩素酸消毒、手指消毒の徹底や受講者のマスク着用も厳格化した。さらに、受講者には着席場所を申告することで研修会終了後に受講者から感染が判明した際の接触者情報の把握環境も整え対応した。

また、一旦受講申込は行ったが会場での受講を控える申込者に対しては、第１回目を録画した映像をYouTubeにアップロード（限定公開）し、本研修会全日程終了後にテキスト並びに期間限定公開アドレスを送付し、各々で研修会の視聴が可能となるよう配慮した。

【第１回 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時：令和４年１月８日（土） 15:30～17:30

開催場所：新宿区立新宿文化センター

受講者：784名

内 容：

1. 挨拶
東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課長 早乙女 芳明
2. 薬剤師の養成及び資質向上等について
(独) 医薬品医療機器総合機構 審査マネジメント部 部長 安川 孝志
3. 薬剤師に求められるコンプライアンスとは

認定 NPO 法人 ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子

【第 2 回 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時：令和 4 年 1 月 8 日(土) 19:00～21:00

開催場所：新宿区立新宿文化センター

受講者：767 名

内 容：同上

【第 3 回 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時：令和 4 年 1 月 9 日(日) 10:30～12:30

開催場所：浅草公会堂

受講者：441 名

内 容：同上

【第 4 回 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時：令和 4 年 1 月 9 日(日) 14:00～16:00

開催場所：浅草公会堂

受講者：294 名

内 容：同上

(5) 社会保険地区指導者等の育成及び協議会の開催

地区の医療保険指導者に対して令和 3 年度医療保険地区指導者研修会を開催し、令和 4 年度調剤報酬改定内容の正しい理解と地区薬剤師会の会員に対する伝達及び周知を依頼した。

【令和 3 年度 医療保険地区指導者研修会】

開催日時：令和 4 年 3 月 12 日(土) 17:00～19:00

開催場所：東京都薬剤師会館 3 階会議室・Zoom ミーティング併用

出席者：地区医療保険指導者 53 名

東京都薬剤師会 役員 5 名

傍聴者 4 名

医療保険委員会委員 7 名

参加者合計 69 名

内 容：

- 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
- 令和 4 年調剤報酬改定 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
- 令和 4 年調剤報酬改定等に関する内容解説 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

4. 質疑応答

【令和4年度調剤報酬改定伝達講習会の開催】

令和4年4月に改定される調剤報酬・介護報酬の変更点、保険薬局を取り巻く現状及びその背景等について講習会を行い解説し周知した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から第1回目のみ会場受講又はライブ配信受講を選択可能とした。また、全申込者が視聴可能とするよう第1回目の講演を録画し、YouTube（限定公開）を用いて後日公開した。

開催日・配信日：

①なかのZERO・ライブ配信

令和4年3月19日（土） 19：15～21：00

②日本教育会館 一ツ橋ホール

令和4年3月21日（祝・月） 10：45～12：30／14：00～15：45

（午前の部・午後の部の2回開催）

③録画配信

令和4年3月25日（金）～

次第：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
2. 令和4年調剤報酬改定 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
3. 令和4年度調剤報酬改定の内容解説

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

受講人数・視聴回数：

①会場受講者数 220名

ライブ配信視聴回数 2,089回

②会場受講者数（午前） 220名

（午後） 86名

③録画配信視聴回数 3,827回

（6）保険薬局の経営等に関する各種調査

令和3年度は、

- ・『第23回 医療経済実態調査（医療機関等調査）』
- ・『令和2年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和3年度調査）』
- ・『令和2年度調剤報酬改定に伴う影響調査（令和3年度調査）』
- ・『令和3年度医薬品価格調査及び特定保険医療材料価格調査』

等の対象として無作為抽出された薬局等に日本薬剤師会の依頼により、地区薬剤師会に

周知依頼を行った。

本会での独自調査は、2-2 薬局機能の充実対策、(11) 後発医薬品の使用促進と後発医薬品データベースの充実 の項を参照。

3-2 介護保険制度の適正な運用の指導と高齢者対策

(1) 在宅薬剤管理業務の拡充のための調査・研修会の実施

急速な高齢化に対応すべく構築が進められている地域包括ケアシステムに関し、在宅療養への薬局・薬剤師の参画を推進することを目的に「在宅療養支援促進事業」を実施している。令和3年度はその一環として『地域包括ケアシステムに於ける薬看連携』をメインテーマに入退院時、在宅療養時を通じて切れ目のないサービス提供に関わる多職種との連携について、それぞれの職種の職能を尊重したうえで各患者に対し最適な薬物療養の提供に繋げることが出来るかを検討する「在宅療養多職種連携研修会」をZoom会議にて開催した。本研修会では薬局薬剤師、病院薬剤師、訪問看護師、介護支援専門員ら演者によるシンポジウムの場も設けた。

【在宅療養多職種連携研修会】

開催日時：令和4年2月12日（土）18:00～20:30

開催場所：ZoomによるWeb会議

受講者数：387名

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子

1. 挨拶

東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

2. 基調講演

「入退院時の病薬連携～急性期・病院薬剤師の立場から～」

独立行政法人 国立病院機構災害医療センター 薬剤部 田畑 信悟

3. 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業について

東京都福祉保健局 健康安全部薬務課 課長代理 森田 貴教

4. 生活を尊重した服薬支援 ～他職種との連携について～

一般社団法人 東京都訪問看護ステーション協会 副会長 田中 千賀子

5. ケアマネジャーが期待する薬剤師との連携

東京都介護支援専門員研究協議会 理事 弓狩 幸生

6. 在宅における薬剤師と看護師の連携

東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

7. 演者によるシンポジウム

座長：東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG 委員 添石 遼平

同 委員 前田 桂吾

4. 医薬品等薬事情報対策

(1) 安全・適正な医薬品使用の啓発のための情報収集・提供

①薬事情報課(医薬品情報室)利用状況

薬事情報課は医薬品情報室として設置されて以来 46 年目を迎えた。医薬品情報のみならず医療情報、健康食品情報、アンチ・ドーピング、薬事関連法規等の各種の薬事情報の収集・提供に努めている。また、インターネット等を利用して会員等に対する情報提供を充実させ、利用者へのサービス向上に取り組んでいる。

【会員等に対する情報活動(令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月)】

(問合せ件数)

令和 3 年 4 月	37 件	10 月	59 件
5 月	24 件	11 月	43 件
6 月	46 件	12 月	34 件
7 月	30 件	令和 4 年 1 月	25 件
8 月	28 件	2 月	26 件
9 月	46 件	3 月	48 件
合 計		446 件	

(問合せ者別集計)

①薬局	75 人	(18.0%)
②病院・診療所	11 人	(2.6%)
③卸	0 人	(0.0%)
④管理センター	0 人	(0.0%)
⑤製薬会社	2 人	(0.5%)
⑥医療関係者	10 人	(2.4%)
⑦その他	318 人	(76.4%)
合 計	416 人	

(問合せ事項別集計)

	全体		医療従事者・関係者		一般	
①保険・法規関係	44 件	(9.9%)	32 件	(30.5%)	12 件	(3.5%)
②医薬品一般	42 件	(9.4%)	9 件	(8.6%)	33 件	(9.7%)
③副作用・中毒	41 件	(9.2%)	4 件	(3.8%)	37 件	(10.8%)
④薬理・疾病	30 件	(6.7%)	2 件	(1.9%)	28 件	(8.2%)
⑤薬剤学的事項	4 件	(0.9%)	1 件	(1.0%)	3 件	(0.9%)
⑥製剤識別	1 件	(0.2%)	0 件	(0.0%)	1 件	(0.3%)
⑦ドーピング	254 件	(57.0%)	54 件	(51.4%)	200 件	(58.7%)
⑧その他	30 件	(6.7%)	3 件	(2.8%)	27 件	(7.9%)
合 計	446 件		105 件		341 件	

問合せ者数、問合せ件数ともに前年とほぼ同様であった。

問合せ者別にみると、一般都民からの問合せがもっとも多く、次いで薬局薬剤師、医療関係者と続く傾向は変わらない。

問合せ事項の内訳としては、一般の方からのドーピングに関する問合せが約 6 割を占めた。

②医薬品情報提供事業

1) DI 速報 (FAX 等) の発行

厚生労働省医薬品・医療機器等安全性情報の概要 No. 382～390 9 回

新薬情報 No. 136～139 4 回

2) 広域病院採用医薬品のお知らせの発行

都内広域病院から連絡があった採用医薬品、採用中止医薬品等の情報を月ごとにまとめ、地区職域薬剤師会会長会あるいは地区薬剤師会宛にメールにて周知を行った。

(2) インターネットを利用した各種薬事情報提供の推進

東京都薬剤師会ホームページ「医薬品等情報ページ」では、独自に作成した「新薬情報」、「添付文書改訂のお知らせ」を随時掲載するとともに、「医薬品・医療機器等安全性情報」の最新号にリンクを貼る等により、周知に努めた。また、冊子「DI レター」「医薬品情報」については、発行後、PDF 形式にて掲載している。

(3) 都民のための「おくすり相談窓口」業務の充実

道府県薬剤師会が作成した Q&A 集等参考書籍、データを収集した。

(4) 都民のための「健康食品に関する安全性情報」提供のための情報収集

東京都及び東京都医師会と協力し、健康食品によると疑われる健康被害情報の収集に努め、東京都へ 55 件の被害情報を報告した。

広く被害事例を収集するため、「健康食品情報共有シート」を年に 2 回、都薬雑誌に同封した。また、地区薬剤師会の協力を得て、2021 年 10 月に開催の「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所を利用して、都民に対し情報収集を行った。新型コロナウイルスの影響により、街頭相談所を開設することが困難な地区においては、会員に対して直接情報収集を依頼した。なお、本事業の周知・協力依頼を目的とした、都民向けチラシ「健康食品・サプリメントの摂取によってこんな悩み抱えていませんか?」を作成して、「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所で配布した。

また、東京都より発出された健康食品との関連が疑われる健康被害事例の収集への協力依頼文書(前期分)を薬学講習会で受講者に配布したほか、後期分の協力依頼文書、健康食品との関連が疑われる健康被害事例(平成 18 年 7 月～令和 3 年 11 月)をまとめた冊子「健康食品に関する安全性情報共有事業」を地区薬剤師会経由で薬局に配布した。

また、都民の健康食品の利用状況や健康被害情報を把握して、健康被害事例を収集するためのツール「健康食品・サプリメント情報シール」を作成して、3 地区薬剤師会(品川区、南多摩地区、北多摩地区)の薬局を対象に配布を行い、シールの活用などについてのアン

ケートを実施した。また、チラシ「サプリ・健康食品の摂取で体に違和感がでていませんか？」を作成して、地区薬剤師会経由で薬局に配布した。

（５）関係諸団体との連携、情報収集

厚生労働省、日本薬剤師会と連携し、医薬品やその副作用等に関する情報の収集に努めた。また、東京医薬品工業協会主催の研修会(オンライン)等へ参加し、医薬品情報収集への協力を求めた。

５．衛生試験所で行う試験検査対策

（１）随意試験：会員薬局の業務向上に資する医薬品試験及び情報提供

医薬品は、必要に応じて試験検査を実施し、その基準に適合しないもの、異物が混入し、又は付着しているものは販売・授与のみならず輸入や貯蔵・陳列が禁止されている。それを取扱う薬局の開設者及び管理者は、必要に応じて医薬品の試験検査を実施することが、薬機法及びその施行規則で義務付けられている。これに該当する医薬品が今年度は３検体都内薬局より依頼された。その内訳は漢方製剤２検体及び化学薬品を主とする内用薬剤１検体であり、内用薬剤は薬局で製造された薬局製剤であった。漢方製剤は漢方薬の煎剤を冷蔵庫に保管していたもので、微生物汚染の懸念が持たれていたものであり、第１７改正日本薬局方「生薬及び生薬を主たる原料とする製剤の微生物限度試験法」を行った結果、両検体とも総好気性微生物の集落数が検出された。１検体はブクリョウ（菌核）を含むためそのことで検出された可能性が高い。一方で他の１検体は煎じる水の検査も行ったところ同等の集落数が検出されたため水からの微生物汚染の可能性が高いと思われた。提出された薬局からは、試験結果通知後、患者への投与を中断したとの連絡があった。内用薬剤は含量規格値を外れるものであった。配合薬剤の各粒径が揃っていなかったことから、薬剤の混和不良、含量均一性不足が推定された。薬局には製剤業務指針の処方・規格の確認及び製造記録の再確認を依頼した。

（２）計画的試験：試験所契約の薬局が製造する薬局製剤の承認規格試験

薬局製剤として提出された４０種類 ７１検体を試験した結果、６検体について不適切と判定した。また、規格成分不検出、規格成分不検出及び規格外成分検出、性状にある芳香を認めない、処方にない基剤の含有及び漢方製剤に衛生昆虫を認めたものがそれぞれ１検体明らかになり、これら５検体は基準に外れるとして、不適合と判定した。

これらを製造した薬局には速やかに結果を報告するとともに、その処方・規格の確認及び製造記録の再確認をお願いした。なお、規格成分不検出以外の不適合検体４検体は再提出され、いずれも基準規格に適合した。規格成分が検出されなかった検体について

は、製造薬局より原料選択時に原末と 1%散を取り違えて製造した可能性があるとの報告があった。

漢方製剤の原料である日局ケイヒの性状（匂い）から精油含量不足が疑われ、精油定量試験の依頼 1 件もあったが、試験結果は日本薬局方の規定に適合した。

【令和 3 年度薬局製剤(40 種類)の承認適否試験結果】

	処方数	検体数	適合	不適合	不適切*
1) 漢方薬（切断生薬）	18	28	27	1	0
2) 生薬製剤（生薬末）	2	2	2	0	0
3) 化学薬品を主とする内服薬	10	25	18	2	5
4) 外用薬	10	16	13	2	1
合計	40	71	60	5	6

*「不適切」とは、含量規格を外れる可能性があるものを示す。

（３）漢方製剤原料サイシンの品質試験

流通しているサイシン（切断生薬）8 検体の品質調査を行ったところ、いずれも、日本薬局方で規定する基原植物とその部位が使用されていた。生薬としての規格基準について、第十七改正日本薬局方に照らし試験したところ、令和 3 年度に土砂等の異物を含んでいた検体と同じメーカーの同一ロットの検体から土砂等の異物が多数確認され、酸不溶性灰分の値は日局規格から外れていた。

その他、1 社が製造する 2 検体は、精油含量が他のメーカーの 2 倍以上だったが、他の基準値に大差はなかった。また、アリストロキア酸は腎障害を引き起こすことが疑われているためアリストロキア酸を含む可能性のある地上部が混入する場合を考慮し、純度試験にアリストロキア酸 I の分析が規定されているが、ケイリンサイシンの地上部及び地下部も含め 8 検体からアリストロキア酸 I を確認することはできなかった。

製造メーカーによって臭気に大きな差があったが、分析の結果、臭気の相違はメチルオイゲノールの含量差に起因することが明らかとなり、臭気の違いと分析データが一致した。

（４）東京都補助事業後発医薬品比較サイトにおいて調剤回数の多いジェネリック医薬品の品質試験

湿気により品質劣化をとまなうデュタステリドカプセルの先発品及び後発品 7 薬剤を密閉性の高い容器に乾燥剤を入れて 25℃±2℃/60%RH±5%RH 暗所に 14 日間保管したところ、デュタステリド含有率の低下及び形状等の性状に変化を認めなかった。

（５）日本薬剤師会が実施する全国統一試験(医薬品試験に係る精度管理試験)への協力

・参画

日本薬剤師会が実施する全国統一試験(医薬品試験に係る精度管理試験)を受託し、本試験所の内部精度管理試験としても活用した。今年度はかぜ薬 7-①のクロルフェニラミンマレイン酸塩定量試験を行い日本薬剤師会に結果を報告した。なお、令和2年度の結果については指摘事項も特になく、各県薬のデータとの比較においても良好との通知を受けた。

(6) その他

外部精度管理試験として、厚生労働省で実施する「登録試験検査機関間比較による技能試験」に参加し、今年度はクロラムフェニコールの定量、旋光度、融点試験を行い、結果を厚生労働省(国立医薬品食品衛生研究所薬品部)に報告した。なお、令和2年度の結果については指摘事項も特になく、問題ないとの通知を受けた。

6. 「図書企画・編纂・出版」事業

(1) 薬剤師のニーズに対応した『都薬雑誌』の編集・発行

薬剤師にとって身近であり、すぐに活用できる情報誌となることに留意しながら企画・編集を行い、月刊誌「都薬雑誌」を12回発行した。

新型コロナウイルス感染症の収束がなかなか見えないなか、薬科大学で設置されたPCR検査センターとその具体的な活動状況を紹介する「薬学部設置された新型コロナウイルスPCRセンター」「東京薬科大学PCR検査センターについて」を掲載するとともに、新型コロナウイルスワクチンに関する記事や、開発が進む治療薬について「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療薬」や「新薬情報アップデート」で解説した。さらにコロナ後遺症の知識を深めるため「新型コロナウイルス感染症後遺症(Long COVID)への漢方薬の活用」を掲載した。

「東京ワクチンチーム(TVT)その発足と活動について」では本会が実施している支援活動を、「『コロナ禍における薬剤師による支援』Web情報交換会を開催しました!!」では各地区の支援活動を紹介するなど、コロナ禍において薬剤師が活動する上で役立つ情報誌「都薬雑誌」となることを目指して企画立案を行った。

「都薬雑誌第44巻」の特徴ある企画には、以下が挙げられる。

「法医学からみた中毒」では、メディアでも話題となった“トリカブト事件”をはじめとする中毒関連の法医学事例についてシリーズで紹介した。

薬剤師の基礎知識として「薬用植物園」「非がん・高齢者疾患の緩和ケア」「非がん疾患におけるオピオイドによる疼痛管理」「医薬品リスク管理計画RMPを積極的に臨床活用しよう」「薬局で取り組む糖尿病の継続的薬学管理」「自然免疫考」などを掲載した。

教育現場からは「医学教育の現状と将来展望」「1 年次生の薬剤師観を育てる早期臨床体験」「コロナ禍での薬局実務実習 - 薬学生の体験記 - 」を紹介した。

その他企画として「肝臓の世界」「C 型肝炎の最近の治療」「身の回りの虫との付き合い方」「薬局製剤で起こす薬局革命」など、多岐にわたる話題を取り上げ、情報を提供した。

また、本会ホームページに「都薬雑誌バックナンバー」第 43 巻(2021 年発行)を掲載したことにより、43 年間分のバックナンバーを会員が閲覧し活用することを可能とした。

(2) 『医薬品情報』・『DI レター』の発行

東京都からの委託を受け、令和 3 年 7 月～令和 4 年 3 月まで医薬品情報 No. 1～5、DI レター No. 1～4 を各々隔月に発行した。医薬品情報では主に医薬品の使用上の注意改訂、副作用について解説したほか、今年度は、「薬剤師が行う新型コロナウイルス感染予防対策」として第 1、2 回 近藤 幸男 学術委員会 副委員長、「微生物の特徴と感染症対策、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の現状」として第 3、4 回 中南 秀将 東京薬科大学 薬学部 臨床微生物学教室 教授に執筆いただいた原稿を掲載した。また、DI レターには医薬品適正使用情報等を掲載した。

(3) 調剤報酬関連の冊子の企画、編纂

(3-1 (3) 「「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討」の項を参照)

7. 医薬品・情報管理センター事業への対策

(1) 医薬品・情報管理センターを拠点とする薬事情報提供活動の推進

「薬と健康の週間」用資料、医薬品情報、DI レター、薬事関係資料、偽造処方箋情報及び医療保険情報などを提供し、管理センターの情報中継機能を支援した。

また、管理センターの役割として、大規模災害で東京が被災した際の薬剤師班活動を支える業務の対応、他道府県からの災害支援応募薬剤師の資格確認や活動場所の指示、活動方法の伝達等、その他災害時の情報拠点となるよう態勢整備を計画した。

(2) 備蓄医薬品検索システムの維持・管理

平成 27 年 7 月にシステムの改修を実施し、新たに添付文書情報の表示機能や後発医薬品比較サイトとの連携等の機能を追加し利用者の利便性の向上を図った。また、医薬

品マスター等の更新を適宜行い、システムの安定運用に向けた対応を継続的に実施した。

(3) 薬局間の備蓄医薬品検索システムの維持・管理

(7.(2)「備蓄医薬品検索システムの維持・管理」の項を参照)

(4) 後発医薬品の備蓄に関する情報提供

令和3年10月調剤分を対象にした第13回地域医薬品使用実態調査で得られた調査結果の一覧表を掲載するとともに、全医薬品の調剤回数を後発医薬品比較サイトのデータに反映させ、最新情報の提供に努めた。

①後発医薬品の調剤回数は全医薬品対比 51.9%、調剤数量は同 47.1%、薬剤料は同 18.8%で、薬剤料のみ減少していた。

②汎用医薬品における後発医薬品変更率は、アロプリノール錠 87.9%、レバミピド錠 85.0%、アムロジピン錠 84.6%、ロキソプロフェン Na 錠 78.9%、ファモチジン錠 81.0%、カルボシステイン錠 78.8%、テブレノンカプセル 73.3%、ランソプラゾール錠・カプセル 86.9%、トラネキサム酸錠・カプセル 73.7%、エチゾラム錠 59.2%、カルボシステインシロップ 65.1%、カルボシステインドライシロップ 70.4%、ツロブテロールテープ 51.9%であった。

(5) 医薬品・情報管理センターを核とした医薬品(一般用含む)分譲業務の検討

管理センターの医薬品販売の利用状況は、【資料5】のとおりであった。

(6) 医薬品・情報管理センター運営に関する支援

平成25年度に医薬品・情報管理センター設置運営基準を示し、「医薬品・情報管理センターの設置及び運営に関する覚書」を各センターと取り交わした。現在は、地区薬剤師会が運営する医薬品・情報管理センター運営要綱の提出を受け、当会にて確認及び保管等の支援を行っている。

8. 「薬事衛生・公衆衛生」事業

(1) 都民に対する一般用医薬品等の適正使用の啓発とお薬相談会の実施

(2-7(1)「健康サポート薬局の役割、かかりつけ薬剤師・薬局の役割等、各種事業の都民への周知」の項を参照)

(2) 『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施

本年度も東京都の委託を受けて、薬事関係法規教本、自主点検表を作成し、地区薬剤師会

を通じて各薬局・店舗に配布した。また、薬事衛生自治指導員に対して下記のとおり講習会を実施し、「薬事関係法規教本 2021 年追補版」や自主点検表の内容説明のほか、巡回指導時の留意事項や報告書の記載方法等について説明を行った。

【薬事衛生自治指導員全体講習会】

開催日時：令和 3 年 9 月 4 日(土) 17:30～19:30

開催場所：ベルサール神田

受講者：109 名 ※新型コロナウイルス感染症対策の一環として、
各地区代表者のみに参加を限定

- 内 容： 司会：東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃
1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
 2. 最近の薬務行政について 東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課長 早乙女 芳明
 3. 薬事関係法規教本 2021 年追補版について 東京都薬剤師会 薬事委員会 副委員長 佐藤 むつみ
 4. 自治指導事業と巡回指導について 東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫
 5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

昨年の「2020 年版」発行以降の改正点、新しい認定制度である地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局等についてまとめ、関係法令の周知を行った。自主点検内容については、昨年同様、薬と健康の週間の時期に、実際に巡回して相互チェックを実施し、不備な点があればその場で改善いただくよう解説した。

なお、日本薬剤師会においても薬局・店舗の医薬品販売制度における法令遵守状況の確認を目的として、「医薬品販売制度対応に関する自己点検」を実施したため、日本薬剤師会の自己点検項目に対応した項目のみを巡回指導実施報告から抜粋し、集計結果を報告した。

(3) 薬機法の定着のための施策の実施

管理薬剤師研修会の実施：管理者の遵守事項全般にわたる研修会として管理薬剤師研修会を以下のとおり開催した。

【令和 3 年度 管理薬剤師研修会】

開催日時：全 4 回開催

10 月 21 日(木)、11 月 4 日(木)、11 月 18 日(木)、11 月 27 日(土)

開催場所：ワイム貸会議室神田 Room7A

受講者：33 名

- 内 容： 司会：10 月 21 日/11 月 4 日 東京都薬剤師会 理事 三溝 学
- 11 月 18 日 東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫
- 11 月 27 日 東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

1. 総論 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
 2. 制度から見た一般用医薬品の販売～地域で信頼される「かかりつけ薬剤師」を目指して
東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃
 3. 改正医薬品医療機器等法について
東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課統括課長代理（監視指導担当） 白川 聡子
 4. 地域連携薬局等について 東京都薬剤師会 常務理事 関根 克敏
 5. 薬事関係法規 麻薬及び向精神薬取締法について
東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課主任（麻薬対策担当） 鈴木 郁雄
 6. 在宅医療における薬剤師の関わりとこれからの展望
東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
 7. 管理薬剤師に求められる医療保険を軸とした社会的役割
東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子
 8. 医薬品情報の利活用 東京都薬剤師会 理事 松本 雄介
 9. グループディスカッション
- 修了証授与：27 名（受講者のうち、全講義に出席した受講者に授与）

（４）薬物乱用防止啓発事業への協力

都内の青少年を対象に薬物に対する正しい知識及び乱用の恐ろしさや弊害を啓発するため、東京都の委託を受け、各地区において青少年薬物乱用防止講習会が実施された。64 名の薬物専門講師等を含む本会会員により小中学校、高等学校、職業能力開発施設等において 140 回の講習会が実施され、延べ 11,943 名が受講した。

なお、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響から予定していた実施回数よりも少ない報告数とはなったが、オンラインで講習会を実施するなどの工夫によって昨年度実施報告数の約 1.5 倍に増加した。

また、本会に実施報告があった学校薬剤師による担当校における今年度の薬物乱用防止講習会の報告数をあわせると 167 回の講習会が実施され、延べ 15,212 名が受講したこととなる。

【令和 3 年度 薬物乱用防止講習会 実施報告数】

	担当校以外で本会会員が 実施した薬乱防止講習会	担当校で会員学校薬剤師が 実施した薬乱防止講習会*	報告数合計
講習会実施回数	140	27	167
受講者人数	11,943	3,269	15,212

*64 名の薬物専門講師等を含む本会会員薬剤師のうち 11 名と、学校薬剤師 6 名から担当校で実施した薬物乱用防止講習会の報告があった。

東京都が実施している「薬物専門講師証明制度」の周知に努め、交付申請に係る事務を

行い、交付が円滑に行われるよう協力した。今年度、申請のあった会員のうち、証明の要件を満たす 27 名に薬物専門講師証明書が交付された。これにより、東京都が実施している薬物専門講師証明制度による本会会員の有効期限内証明書交付者数は令和 3 年 10 月 1 日現在、82 名となった。

また、東京都の薬物乱用防止対策への協力依頼を受け、「東京都不正大麻・けし撲滅運動啓発用ポスター・リーフレット」「東京都『ダメ。ゼッタイ。』普及運動啓発用ポスター・リーフレット」「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動啓発用ポスター・パンフレット」等を各地区及び職域薬剤師会に配布した。

本会公衆衛生委員会作製の、小学校高学年を対象とする「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！」フラッパー型啓発資材、並びに中学生及び高校生を対象としたフラッパー型啓発資材「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！大麻編」は、今年度も地区薬剤師会をはじめ、東京都薬物乱用防止推進協議会等に頒布し、薬物乱用防止講習会等で広く活用された。

(5) 都民に対する受動喫煙対策の周知徹底と啓発

厚生労働省からの受動喫煙対策に係る普及啓発活動の協力依頼を受け、啓発資材ポスター・クリアファイルを各地区及び職域薬剤師会に配布した。

小学校高学年を対象として本会公衆衛生委員会が作製した受動喫煙に関するフラッパー型啓発資材「受動喫煙に NO!!」は、今年度も引き続き各地区の受動喫煙対策の周知や啓発活動で活用された。

(6) 健康日本 21(第二次)に基づいた、都民に対する健康増進活動への協力と推進

健康増進法に基づき策定された、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針の具体的な計画である健康日本 21(第二次)に基づき、国民一人ひとりが食生活改善を図るきっかけとなることをねらいとした食生活改善普及運動及び健康増進運動の推進に取り組んでいくよう地区薬剤師会への周知に努めた。

(7) 『薬と健康の週間』事業の実施

「薬と健康の週間」(10 月 17 日～23 日)において、日本薬剤師会、厚生労働省、東京都及び関係機関と協調し都内 45 地区で「薬の街頭相談所」を開設した。街頭相談所と薬局等に下記のポスターをはじめ各種資料を配布し、都民へ薬の正しい使い方等の啓発並びに情報発信を行った。

【ポスター、資料等の配布】

「薬と健康の週間」(ポスター)—1 薬局/店舗 1 枚

「薬の無料相談」(ポスター) —1 会場 2 枚

「薬との上手なつきあい方」 —1 会場 100 部(1 薬局/店舗 5 部)

「知っておきたい薬の知識」 —1 会場 200 部(1 薬局/店舗 3 部)
「東京都薬局機能情報提供システム t-薬局いんふお」—1 会場 300 枚(1 薬局/店舗 2 部)
「地下鉄路線図」都薬作成 —1 会場 360 枚(1 薬局/店舗 70 枚)
「薬の相談記録」(個票) —1 会場 100 枚
「公衆衛生に関する Q & A ～災害編～」 —1 会場 20 冊
「健康食品 情報共有シート」 —1 会場 50 枚
「健康食品・サプリメントの摂取によって『こんな悩み抱えていませんか?』」
—1 会場 200 枚
「もうお持ちですか? かかりつけ薬剤師・薬局 ご存じですか? 健康サポート薬局」
—1 会場 300 枚(1 薬局/店舗 2 部)
「ジェネリック医薬品 Q & A」—1 会場 50 部
「医薬品医療機器総合機構ポスター」 —1 薬局/店舗 1 枚
「医薬品副作用救済制度」 —1 薬局/店舗 1 枚
「健康食品クリアファイル」 —1 会場 40 枚
「ご存じですか? うっかりドーピング」 —1 会場 100 枚

【薬の街頭相談所の開設】

45 地区において街頭相談所またはコロナ禍において各薬局で相談所を開設し、薬事に関する無料相談等を実施し、都民の薬に対する関心に応え、PR 効果をあげた。また、介護相談や薬物乱用防止、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局の啓発活動等も実施した。なお、薬事相談については東京都病院薬剤師会の協力を得て実施した。今年度はコロナ禍において 3 地区が街頭相談所と各薬局での相談所の開設をやむを得ず中止した。

今年度、本会公衆衛生委員会では、災害時において薬剤師が公衆衛生に関して指導的な役割を果たす際の参考となることを念頭に「公衆衛生に関する Q&A～災害編～」を 1 万部作成し、「都薬雑誌」に同封して配布するとともに、令和 3 年度「くすりと健康の週間」における都内街頭相談所等において配付した。さらに、各県薬剤師会並びに各地区薬剤師会に本資材を配布・紹介したことで、頒布の要望があり、平時の地域連携活動として地域住民の健康管理支援や衛生管理、防疫対策等の公衆衛生に携わる際の参考資料として活用された。

☆街頭相談所開設場所は次のとおりである。(カッコ内は地区薬剤師会名)

千代田区、日本橋、京橋、港区、新宿区、文京区、下谷、浅草、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区(世田谷・玉川砦)、中野区、杉並区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、西多摩、八王子市、日野市(南多摩)、多摩市(南多摩)、稲城市(南多摩)、府中市、調布市、狛江市、

小金井市(多摩中央)、国分寺市(多摩中央)、立川市(北多摩)、昭島市(北多摩)、国立市(北多摩)、東大和市(北多摩)、武蔵村山市(北多摩)、町田市、武蔵野市、三鷹市、西東京市(西武)、小平市(西武)、東久留米市(西武)、清瀬市(西武)

(8) 自殺防止対策普及啓発活動への協力

「自殺対策基本法」及び「自殺総合対策大綱」に基づき、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向けた、厚生労働省からの啓発活動及び支援策等の推進協力依頼を受け、地区薬剤師会を通じて広報用ポスター(自殺予防週間並びに自殺対策強化月間)を薬局に掲示依頼するとともに、薬剤師が自殺対策のゲートキーパーとして地域関係機関と連携の上、各種相談支援等に取り組んでいくよう周知した。

(9) 東京オリンピック・パラリンピック開催時における薬局のアンチ・ドーピング対応の推進と、各スポーツ団体とのアンチ・ドーピング活動の協力推進

都内のスポーツ選手等の相談を受け付ける都薬アンチ・ドーピングホットラインには、254件の相談があり、薬事情報課における全問合せ数の57.0%を占めている。アンチ・ドーピング活動について、本年度も東京都より「医薬品の適正使用推進事業」として助成を受けており、意図しないドーピング(うっかりドーピング)を防止するためにアンチ・ドーピング講習会の開催、薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブックの配付を行っている。

「アンチ・ドーピング活動 地区薬剤師会指導者講習会」は、各地区薬剤師会代表者と情報共有をすることを目的に本年度も開催した。アンチ・ドーピング活動担当者、学校薬剤師担当者を対象にアーカイブ配信で講習会を行った。

公認スポーツファーマシストへの活動支援として、「公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会」を2014年から開催している。本年度は小規模の講習会を会員向けに開催し、当日に撮影した講義を後日アーカイブ配信したところ、全国から180名のスポーツファーマシストが視聴した。

「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2021年版」は地区薬剤師会を通して会員が勤務する薬局に配付した。

その他、ドーピング防止のための資材として、一般向け啓発パンフレットの内容の見直しを行った。

【令和3年度 アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会】

開催日時：令和4年3月31日(木)～4月14日(木) 配信

開催場所：Web

受講者：67名

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

1. 挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 日薬・都薬が作成した学校薬剤師向け資材の使用方法
アンチ・ドーピング委員会 委員長 高松 謙悟
3. 日薬・都薬が作成した学校薬剤師向け資材を学校で使用了実例
アンチ・ドーピング委員会 委員 原山 眞理子
4. 国際スポーツ大会における 医療サービス提供
～東京 2020 大会に薬剤師として関わって～ 佐藤 文香
5. まとめ 東京都薬剤師会 理事 小林 百代
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高橋 正夫

【公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会】

開催日時：令和 4 年 1 月 16 日(日) 13:00～15:00

アーカイブ配信：令和 4 年 3 月 18 日～令和 4 年 5 月 9 日

開催場所：連合会館(当日撮影した講義をアーカイブ配信)

受講者：集合研修 14 名(アーカイブ配信の受講者 180 名)

- 内 容： 司会：東京都薬剤師会 理事 小林 百代
1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高橋 正夫
 2. アンチ・ドーピングに関する最新の動向
日本アンチ・ドーピング機構 専務理事 浅川 伸
 3. 2022 年禁止表と TUE 申請について
日本アンチ・ドーピング機構 鈴木 智弓
 4. アスリートの体調管理 ～薬剤師として私が普段から心がけていること～
東京パラリンピック 自転車 女子個人ロードタイムトライアル、
女子個人ロードレース 金メダリスト
楽天ソシオビジネス VC 福岡 杉浦 佳子
 5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜

9. 組織強化対策

(1) 会員増加策の検討

会員数が増加傾向に転じない現状において、本会の将来を見据えて適正と思える会費額と、会費の構成のあり方について検討を行った。また、本会の活動の広報等を目的に、平成 23 年 3 月に運用を開始した「とやく携帯メルマガ」では、本会の各委員会からの寄稿文の定期的な配信を開始した。メルマガの配信は令和 4 年 3 月 31 日で通算 2652 号となった。

(2) 公益法人制度への対応

平成 25 年 4 月 1 日に公益社団法人として登記して以後、新法人法に基づく定款並びに諸規程の定めに従って会務を遂行している。

定款及び法人法の定めにより、令和 3 年 6 月の通常総会終了を以て任期満了となった役員について、役員選考規程に基づき、役員選挙管理委員会が統括して、理事 25 名、監事 2 名を第 99 回通常総会(令和 3 年 6 月 19 日開催)において選出した。

また、2 年ごと 7 月末日までに実施する旨の定款及び法人法の定めがある代議員・予備代議員について、代議員選挙管理委員会が統括して、次期代議員選挙を実施し、代議員 143 名、予備代議員 128 名を選出した。

(3) 会員管理システムの維持と拡充

会員管理システムの安定的な運用を目的に、本年度も引き続き、各種 OA 機器の整備・拡充を行った。

(4) インターネット等を活用した本会と地区・職域薬剤師会間の連携強化

新型コロナウイルス感染症対策を含め、会議のあり方について検討を重ね、Web 等を用いて地区及び職域薬剤師会等の会議が開催できるよう対応を行った。また、平成 25 年度に運用を開始した、地区薬剤師会への電子メールによる情報配信システムを活用し、タイムリーな情報伝達に努めた。さらに、平成 27 年 4 月 1 日にリニューアルしたホームページについても、適宜更新を行い、最新の情報発信に努めている。

(5) 職種部会(製薬部会・卸勤務薬剤師部会・行政薬剤師部会)活動への支援

各事業などにおいて、連携を図り支援を行った。

(6) 学校薬剤師活動への支援と地区担当者会議及び日本薬剤師会学校薬剤師東京ブロック連絡会議の実施

学校薬剤師活動の支援及び各地区薬剤師会学校薬剤師担当者等との連絡調整、連携強化及び学校薬剤師活動の支援を目的として、「東京都薬剤師会 学校薬剤師担当者会議」及び「日本薬剤師会 学校薬剤師東京ブロック連絡会議」を下記のとおり開催した。

東京都薬剤師会「学校薬剤師担当者会議」は平成 25 年度(2013 年度)より開催しており、平成 27 年度(2015 年度)からは日本薬剤師会学校薬剤師部会事業等の周知とブロック内の情報共有及び意見交換等を目的とした日本薬剤師会「学校薬剤師東京ブロック連絡会議」と同時開催している。

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策としてオンライン配信による開催形式(一部ハイブリット形式)とし、下記のとおり 2 部構成で実施した。

第 1 部「学校薬剤師東京ブロック連絡会議」では、日本薬剤師会学校薬剤師部会から活

動の現状や、文部科学省資料の新型コロナウイルス感染症への対応について説明があった。

第2部「学校薬剤師担当者会議」では、「コロナ禍における児童・生徒のストレスとメンタルケア」について東京薬科大学薬学部 齋藤 百枝美 客員教授に講演いただいた。さらに本会議において、都内全ての学校薬剤師が、格差のない統一した活動を実施することを目的に、平成29年度(2017年度)から調査を実施している「学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」において、4年間分の集計結果を比較した「ダニ・ダニアレルゲン検査」結果について報告があり、検査に関する指導・助言の実施割合数とそれに伴う適合割合数の増加が認められ、各地区薬剤師会で指導・助言が適切に実施されている実態が明らかにされた。また、各検査方法を再確認するための検査実施・判定方法の資料を提示するとともに、不適合時における適切な指導助言についても紹介した。調査結果は【資料6-1・2】のとおりである。

今年度は、コロナ禍における学校の換気(二酸化炭素検査のあり方)等について検討を進めるため、コロナ禍での学校の換気を中心に、薬物乱用防止教室、バクスミー®点鼻粉末剤、新型コロナウイルス抗原検査キットに関する実態に関して Google フォームを利用したオンラインでの回答方式で令和3年12月6日(月)～令和4年1月17日(月)の期間に調査を実施し、1,276件の回答を得た。調査結果は、「都薬雑誌5月号」(Vol. 44 No. 5(2022))に掲載した。

【学校薬剤師東京ブロック連絡会議及び担当者会議】

開催日時：令和3年11月23日(火・祝) 9:30～12:25

開催場所：東京都薬剤師会館(オンライン会議併用)

出席者：各地区薬剤師会 学校薬剤師担当役員・学校薬剤師活動に関して指導的立場にある学校薬剤師で本会会員 62名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

【第1部 学校薬剤師東京ブロック連絡会議】

1. 日本薬剤師会代表挨拶 日本薬剤師会 常務理事 富永 孝治
2. 学校薬剤師部会活動の現状報告と課題等について
～学校薬剤師活動の充実等に向けて～

日本薬剤師会 学校薬剤師部会長 富永 孝治

3. 東京ブロックにおける学校薬剤師活動等に関する協議

進行：東京都薬剤師会 理事 小林 百代

【第2部 学校薬剤師担当者会議】

1. コロナ禍における児童・生徒のストレスとメンタルケア

東京薬科大学薬学部 客員教授 齋藤 百枝美

2. 「学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」集計結果報告

東京都薬剤師会 学校保健委員会 副委員長 福田 早苗

3. 質疑応答 進行：東京都薬剤師会 理事 小林 百代

4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

(7) 講習会・研修会実施における担当部署間の連携強化

研修会・講習会担当役員及び役員会での検討を踏まえ、令和3年度の活動テーマを「すすめよう 都民のための地域連携」に決定し、各研修会・講習会は、このテーマに沿って企画・実施された。

10. 災害時における医療救護対策

(1) 災害時等、医療救護体制の整備

東京都は東日本大震災での教訓を踏まえ、都内での大規模災害発生時における医療機能の円滑な確保のため、平成24年度より都内12ヶ所に二次保健医療圏を単位とした「地域災害医療連携会議」を設置した。この連携会議に当会から該当地区の役員が各々出席した。

(2) 災害時医療救護に係る次期世代に向けた「災害時薬事活動リーダー」の養成研修会の開催

東日本大震災、熊本地震等の災害を踏まえ、災害時における薬剤師の役割、病院と薬局・薬剤師と多職種の連携、東京都の災害対策の方針、災害医療の特殊性等を理解し、災害薬事コーディネーターとして地域での災害医療に貢献できる薬剤師リーダーの知識を習得することを目的とした「災害時薬事活動リーダー研修」を2回計画した。1回目は開催、2回目は新型コロナウイルス感染拡大防止によるまん延防止等重点措置により、東京都からの要請により中止となった。当該研修では東京都病院薬剤師会、東京医薬品卸業協会にも参加頂き、また地域ごとにグループを作成し、より地域の実情を見据えた図上訓練を行った。

【災害時薬事活動リーダー研修】

開催日時：第1回 令和3年12月12日(日) 9:00～17:00

第2回 令和4年1月30日(日) 9:00～17:00 (中止)

開催場所：第1回 A P 日本橋(中央区)

参加者：第1回 50名(地区薬剤師会22名、東京都病院薬剤師会16名、東京医薬品卸業協会12名)

参加地区：第1回 千代田区、新宿区、台東区（下谷、浅草）、豊島区、
北区、荒川区、板橋区、足立区、狛江市、府中市

内 容：

3. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造
4. 東京都の災害医療体制について 東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課
3. 東京都における災害対策～災害時における医薬品等の供給体制～ 東京都福祉保健局健康安全部薬務課
4. 薬剤師会・班の活動について 東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜
5. 災害派遣時における自衛隊の医療活動について 防衛省陸上幕僚監部衛生部
6. 図上訓練（DIG・被害想定への俯瞰） 日本赤十字社医療センター 丸山 嘉一
7. 図上訓練（薬事関係者の連携） 東京都医師会 大桃 丈知
8. 図上訓練総括
9. 修了証授与・閉会 東京都薬剤師会 副会長 高橋 正夫

（3）防災訓練への参加協力

東京都では、多摩地域を震源とする非常に強い地震が発生し、最大震度7、多摩部の広い範囲で震度6弱以上を記録した想定で、令和3年11月21日（日）に「令和3年度東京都・東村山市合同総合防災訓練」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を鑑み、東京都からの要請により、中止となった。

（4）災害時における薬局BCP（事業継続計画）の活用支援

現在、当会ホームページ上に掲載している業務継続計画（BCP）の作成用ひな型を、災害発生時の薬剤師の活動として、薬局では限られた資源で営業の継続または早期の再開する基盤となるよう維持・管理を行った。

（5）災害時等における地区薬剤師会との連携体制の整備

災害時に会員の安否確認を迅速に行うため、平成28年度に契約した総合警備保障株式会社提供の「ALSOK安否確認サービス」を利用した電子メールでの連絡システムの活用を推進した。令和3年度は、地区薬剤師会に対し、システムの理解促進に努め、使用方法及び加入の薦め及び活用方法の説明を行い、予行演習を兼ねたテスト配信を行い、災害時の備えとした。

（6）東京都国民保護計画への体制整備

平成 19 年 3 月に作成した「国民保護業務計画」の役員・職員連絡網についてインターネットでの電子メールを利用した、総合警備保障株式会社提供の「ALSOK 安否確認サービス」の導入、連絡試験を実施した。

（7）コロナウイルス対策を含めた、「新型インフルエンザ等対策」の推進

新型コロナウイルスの感染拡大の中、東京都が実施するゴールデンウィークと年末年始の「調剤体制の確保事業」及び「PCR 検査無料化事業の実施事業者の募集」について地区薬剤師会を通じて周知した。

新型コロナウイルスワクチン接種については、会員が所属する薬局の従事者に対し予診票付き接種券を 5, 478 枚発行して送付した。

7 月 7 日～9 月 30 日に実施された東京都医師会、薬剤師会、歯科医師会、看護協会の 4 団体によるワクチン接種事業である「東京ワクチンチーム」ではワクチンのシリンジへの充填業務を担い、本会役員及び地区薬剤師会から延べ 395 名が参加し、1 回目 18, 797 名、2 回目 18, 741 名分のワクチン接種に協力した。

また、東京都から委託を受けワクチン接種会場でワクチンのシリンジへの充填について精査するため、本会役員が複数会場を巡回して鑑査を行い、9 月から 3 月までの間に 258 日、延べ 428 名が出動した。

感染拡大防止対策として国が実施した、患者宅等に薬剤を配送又は薬局の従事者が届けた場合の費用を補助するための「薬局における薬剤交付支援事業」の請求等の事業に関する事務を行い、令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 2 月末日の間に 3, 147 薬局から 118, 564 件の請求があった。

1 1. 会員奉仕事業

（1）学術出版物等の斡旋

令和 3 年度中に約 4, 600 冊、会員価格にして約 2, 244 万円余の書籍の斡旋を行った。主な書籍斡旋数は「薬価基準点数早見表 令和 4 年 4 月版」、「保険薬事典プラス 令和 4 年 4 月版」、「今日の治療薬 2022」、「治療薬マニュアル 2022」などであった。また、各種研修会に出版社に出店を求め、会員の学術出版物入手の便宜を図った。

（2）共済制度の運営

東京都薬剤師会共済会の加入者は、令和 4 年 3 月末日現在 154 名（161 口）であり、令和 3 年度は慶弔金として 4 件の対象があった。また、日本薬剤師会共済部への加入手続きを含む各種手続きについても事務を代行した。

（３）制度融資の紹介・斡旋

日本薬剤師会が提携する各銀行よりの制度融資「薬局ローン」について、問い合わせに
応対し資料を送付するなどの紹介を行った。

（４）企業年金保険等及びがん保険の斡旋

会員の厚生事業として、企業年金保険（明治安田生命・ジブラルタル生命・令和 3
年 3 月末日現在 3 名）及びがん保険（アフラック、令和 3 年 3 月末日現在の加入 62 件）
の団体契約を継続した。

（５）薬剤師賠償責任保険制度の周知と加入促進

日本薬剤師会の薬剤師賠償責任保険並びに個人情報漏えい保険への加入について、地
区職域薬剤師会会長会及び本会ホームページへの掲載により会員に周知を図り加入を
推奨した。

1 2. その他

（１）日本薬剤師会の諸施策に対する協力と意見具申

①日本薬剤師会 薬事関連情報評価・調査企画委員会で企画された一元管理に関する 調査(AMR 調査)

「薬局における患者の薬物療法の把握及び検査値を用いた薬剤師業務に関する研究」
(一元管理に関する調査)は、患者の薬物療法に関する情報を薬局が一元的に管理してい
る状況を調査し、検査値に着目した患者情報の状況の調査を行うことにより、薬局にお
ける患者情報収集の意義の理解が高まり、薬物療法の質的向上につなげることを目的に
行われた。東京都薬剤師会では地区薬剤師を通して本調査の協力を呼び掛けた。

「AMR 対策に関する抗菌薬使用量調査の地域における検討に関する研究」(AMR 調査)で
は、各都道府県薬剤師会に協力依頼があり、会員が勤務する薬局に協力を依頼した。本
調査は薬局において、2019 年 1 月、6 月、2021 年 1 月、6 月の 4 つの期間に調剤された
抗菌薬使用量の集計結果を、主に地域単位で収集することで地域における外来診療時の
抗菌薬使用量を把握し、同時に抗菌薬使用量の全国の状況を把握することを目的として
いる。東京都薬剤師会では 49 件の薬局の協力を得て日本薬剤師会に集計データを提出
した。

（２）日本薬剤師会関東ブロック薬剤師会との連携

関東ブロック(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県の各薬
剤師会)の連携を強化するため、以下の関東ブロック会議に出席し日本薬剤師会総会開

催にあたり日本薬剤師会の事業について、意見交換を行う等、連携の強化を図った。

第1回：令和3年5月23日(主催：栃木県薬剤師会)

第2回：令和4年2月6日(主催：茨城県薬剤師会)

(3) (一社)東京都病院薬剤師会との連携の更なる強化

地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業「無菌調製技能習得研修会」においては、実習サポートのため、東京都病院薬剤師が実習講師として受講者の指導を行った。また、今年度から開始された「薬業連携推進事業」では、東京都病院薬剤師会所属の36施設の薬剤部(科)の協力のもと、事業が展開された。今年度事業の評価・検討を行う「薬業連携推進関係者連絡会」開催にあたっては、東京都病院薬剤師会から推薦された委員3名が参加し、本会及び東京都医師会の委員とともに今後の事業展開に向けて意見交換を行った(2-2(7)「地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備」の項を参照)。

(4) (一社)東京都学校薬剤師会との連携

学校薬剤師活動に対し情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。

(5) 東京都並びに関連官公庁への協力と意見具申

東京都福祉保健局をはじめ関係官庁に対しては、薬事制度・公費負担医療制度等に関連して連絡を密にし、各種事業に対しては可能な限りの支援・協力を行った。

(6) (公社)東京都医師会・(公社)東京都歯科医師会との連携

東京都医師会・東京都歯科医師会とは、意見・情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。また、平成28年度から、三師会の会員に向けた講演会を年1回開催し、更なる連携強化に向けた取組みを行って来たが、本年度については、コロナ禍の状況に鑑み、開催を中止した。

(7) (公財)日本薬剤師研修センター事業への協力

東京都薬剤師研修協議会として、研修認定薬剤師証の交付申請等に係る事務を行うなど、(公財)日本薬剤師研修センターが進める薬剤師生涯教育事業に協力した。令和3年度における研修認定薬剤師証の受理数は3,273名(内訳:新規認定証受理数1,693名、更新認定証受理数1,580名)【参考:令和2年度 研修認定薬剤師証受理数5,774名(内訳:新規受理数2,275名、更新受理数3,499名)】であった。なお、(公財)日本薬剤師研修センターが薬剤師研修・認定電子システム(PECS)を稼働させ、認定申請を電子化した

ことに伴い、本会における申請受付は令和3年12月末まで、認定薬剤師証の配送は令和4年3月末までで終了した。

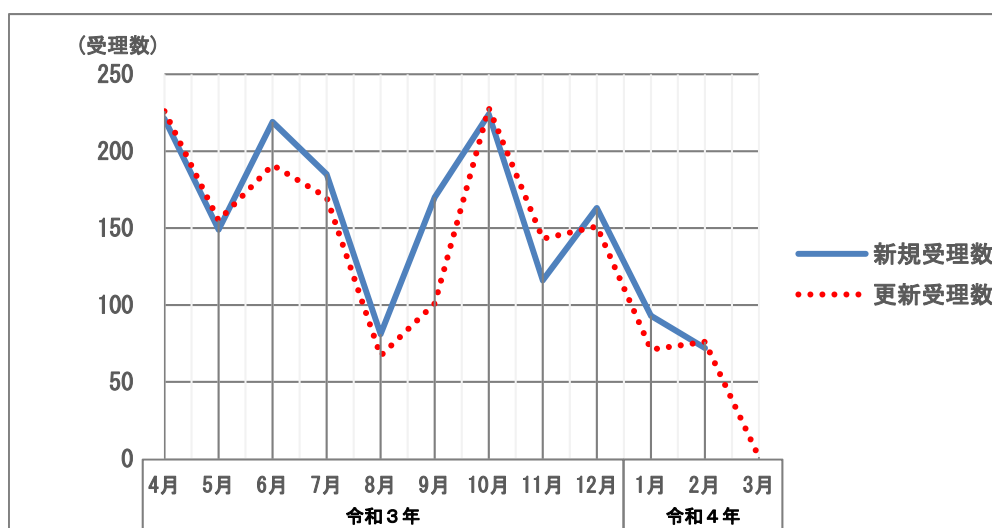
また、(公財)日本薬剤師研修センターが開発する、薬剤師研修・認定電子システム(PECS)への移行や、PECSへの登録に関する問い合わせに応じるなど、その周知に努めた。

その他、(公財)日本薬剤師研修センターが主催する「薬剤師生涯学習達成度確認試験」に協力し、役員1名が試験監督を務めた。

【令和3年度における研修認定薬剤師証受理数(令和3年4月～令和4年3月)】

	令和 3 年									令和 4 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
新規受理数	221	149	219	185	81	170	224	116	163	93	72	0	1,693
更新受理数	226	155	191	170	67	101	228	143	151	71	76	1	1,580
受理数計	447	304	410	355	148	271	452	259	314	164	148	1	3,273

【令和3年度における研修認定薬剤師証の受理数の推移】



(8) (一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構との連携

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構(以下、関東地区調整機構)が推進する安定した実務実習受入れ体制の維持並びに令和元年度から開始された改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた充実した実務実習が適切に実施されるよう、関東地区調整機構が運営する各種事業(認定実務実習指導薬剤師養成事業並びに実務実習施設割振調整事業等)に対する支援・協力を行った(2-1(6))「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた実

務実習の充実」の項 及び 2－2（５）「実務実習受入れ態勢の整備」の項を参照）。

（９）都内薬科大学・大学薬学部との連携

薬学教育に関する各種事業に対し意見・情報交換を行った。薬学教育 6 年制課程における充実した長期実務実習の適切な実施への支援・協力を行うとともに、本会が開催する講習会等への支援・協力など、相互協力を行った。

また、「地域薬局への薬学生就職対応事業」についても相互協力を行った（12.（13）「地域薬局への薬学生就職対応事業の実施」の項を参照）。

（10）各関連団体・友好団体との交流・連携及びその強化

（公社）東京都医師会、（公社）東京都歯科医師会、（公社）東京都看護協会、東京都薬剤師国民健康保険組合、（一社）東京医薬品卸業協会、（公社）東京医薬品工業協会、（公社）東京都医薬品登録販売者協会、（公社）東京薬事協会、（公社）東京生薬協会等の関連諸団体と連携を保ちながら協調を図った。

（11）都薬会館建設に係わる調査・分析

本会が、薬剤師生涯研修認定機構(CPC)の認証を受け、研修制度事業を開始することに伴い、事務局機能の強化と効率性、今後の体制を勘案し、会館 5 階フロアーに生涯学修支援センターのための事務スペースを設置し人員を異動させるため、改修工事を行った。

（12）会員サービスに対応した事務局機能の充実と質的向上

【会員向け年会費無料クレジットカードの斡旋】

都薬会員ならば年会費が無料となる VISA ゴールドカードの発行を三井住友カード社と提携し、平成 20 年 11 月から会員に対して斡旋し、令和 4 年 3 月末日現在で 236 名の会員に対して 318 枚が発行されている。

（13）地域薬局への薬学生就職対応事業の実施

平成 30 年度より、本会担当役員と 9 大学の教員から構成される「地域薬局への薬学生就職対応事業ワーキンググループ」を設置し、同ワーキンググループの意見等を踏まえ、以下の取組を行った。

都内大学薬学部・薬科大学の学生と、新卒の学生の採用を希望する会員が所属する薬局の橋渡しとして、求人を希望する薬局に、かかりつけ薬剤師・薬局として 24 時間対応や在宅業務に取り組んでいること、インターンシップの実施等、一定の条件を設けて求人情報の募集を行い、当該条件を満たした 19 薬局の求人情報を、都内 10 大学の就職

担当部署へ提供し、学生が学内 WEB ページや、事務室等で随時閲覧できるように対応した。

また、例年、学内企業セミナーが開催され本会も参画していたが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面で行うセミナーの開催が一部中止となったが、一方で、Zoom 等を利用したオンライン企業セミナーを開催する 2 大学（昭和薬科大学、帝京大学薬学部）と、オンデマンド動画配信を行う大学（昭和大学薬学部）から本会に参画が求められ、3 大学合計 55 名の学生に、東京都薬剤師会として、地域に密着した薬局の取り組みや、在宅療養の実情、就職先として選択する際の魅力を学生に伝え、参加した学生からなされた多くの質問や相談に応じた。

また、次年度に向け新卒の学生の採用を希望する会員が所属する薬局に、同様の要件を設け求人情報の募集を行い、都内 10 大学の就職担当部署へ提供した。

（１４）薬剤師資格証申請に係わる体制の整備

日本薬剤師会が認証局を務める、薬剤師資格証の発行に際しては、地区薬剤師会の協力を得て、厳密な本人確認を行う必要があることから、薬剤師資格証申請に係る地区薬剤師会担当者向け説明会の開催を予定していたが、コロナ禍の状況に鑑み、開催を延期することとした。

令和３年度 各賞授賞者（敬称略）

叙 勲

藍綬褒章(秋)

龍岡 健一

厚生労働大臣表彰

石垣 栄一

大澤 誠

〔薬事功劳〕

東京都知事表彰

森田 慶子

〔福祉・医療・衛生功劳〕

東京都知事感謝状

岩楯 新司

渋谷 泰史

平島 徹

〔薬事関係功劳〕

東京都知事感謝状

渋谷 泰史

人見 一男

〔薬物乱用防止関係功劳〕

東京都教育委員会表彰

佐藤 和子

平井 敏雄

高田 尚明

〔健康づくり功劳〕

杉下 一幸

早坂 幹生

鈴木 輝美

菅沼 かおる

有阪 捷子

佐野 らん子

福田 早苗

阿久津 七光

日本薬剤師会功劳賞

大木 一正

東京都薬剤師会功劳賞

堀部 敬三

平田 紀美子

富田 勝司

中川 建太郎

中村 正則

佐是 加津江

野村 圭伊

荒井 さち穂

安田 江里子

阿久津 七光

令和 3 年度 物故会 員（敬称略）

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

音 琴 茂	（千代田区）	清 水 治	（港 区）
中 千 鶴	（新 宿 区）	松 田 達 人	（文 京 区）
西 村 梅 雄	（下 谷）	武 井 良 輔	（墨 田 区）
平 田 陽 一	（江 東 区）	足 助 孝 子	（大 田 区）
内 山 功	（渋谷区）	建 持 直 彦	（豊 島 区）
葉 山 実	（北 区）	蓼 沼 陽 子	（荒 川 区）
櫻 井 雅 美	（葛 飾 区）	鮫 島 光 徳	（八王子市）
屋 良 美 枝 子	（調 布 市）	園 田 昌 子	（三 鷹 市）
北 澤 式 文	（病 院）	久 保 光 正	（直 扱）
桜 井 朋 子	（直 扱）	今 井 佑 吏 子	（直 扱）

令和4年3月末日現在 地区及び職域薬剤師会別 会員数

(人)

地区 薬剤師会	現 在 会 員 数			
	A	B	賛助	合 計
千代田区	88	14	0	102
日本橋	33	11	0	44
京 橋	54	11	3	68
港 区	117	24	2	143
新宿区	145	39	0	184
文京区	107	32	0	139
下 谷	51	11	0	62
浅 草	65	21	0	86
墨 田 区	93	21	1	115
江 東 区	117	49	1	167
品 川	160	50	2	212
目黒区	90	28	1	119
大 田 区	229	84	1	314
世 田 谷	117	25	3	145
玉 川 砧	119	51	2	172
渋谷区	92	15	2	109
中 野 区	115	25	1	141
杉 並 区	181	75	0	256
豊 島 区	111	13	3	127
北 区	134	26	0	160
荒 川 区	76	12	0	88
板 橋 区	203	74	0	277
練 馬 区	202	74	2	278
足 立 区	182	50	0	232
葛 飾 区	162	72	2	236
江戸川区	179	26	0	205

地区薬剤師会	現 在 会 員 数			
西 多 摩	114	47	0	161
八王子市	159	179	2	340
南 多 摩	126	70	1	197
町 田 市	115	47	0	162
府 中 市	87	2	0	89
調 布 市	74	13	0	87
狛 江 市	24	4	0	28
多摩中央	62	10	1	73
北 多 摩	150	35	0	185
武蔵野市	68	40	1	109
三 鷹 市	42	10	2	54
西 武	222	66	0	288
中 計	4,465	1,456	33	5,954
職 域 薬剤師会	現 在 会 員 数			
	A	B	賛助	合 計
病 院	0	186	0	186
都立病院 関連施設	0	25	0	25
大正製薬	0	4	0	4
佐藤製薬	0	19	0	19
エスエス製薬	0	16	0	16
小 計	0	250	0	250
直 扱	44	642	19	705
合 計	4,509	2,348	52	6,909

令和3年度 地区薬剤師研修会 受講者数

(人)

行政区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
千代田区	千代田区	26	20
中央区	日本橋	15	12
	京橋	21	25
港区	港区	40	33
新宿区	新宿区	31	24
文京区	文京区	54	50
台東区	下谷	23	23
	浅草	19	18
墨田区	墨田区	36	33
江東区	江東区	30	30
品川区	品川区	102	86
目黒区	目黒区	47	36
大田区	大田区	68	62
世田谷区	世田谷	58	59
	玉川砦	64	70
渋谷区	渋谷区	32	32
中野区	中野区	74	68
杉並区	杉並区	103	96

行政区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
豊島区	豊島区	42	45
北区	北区	38	32
荒川区	荒川区	32	31
板橋区	板橋区	105	110
練馬区	練馬区	135	154
足立区	足立区	84	84
葛飾区	葛飾区	75	65
江戸川区	江戸川区	59	46
多摩第一	多摩中央	21	18
	武蔵野市	31	28
	三鷹市	16	20
多摩第二	府中市	31	21
	調布市	20	18
	狛江市	15	11
多摩第三	北多摩	53	61
	西多摩	45	32
多摩第四	八王子市	108	108
	南多摩	56	57
	町田市	31	24
多摩第五	西武	64	62

		第1回	第2回
合 計	全地区	1,904	1,804

令和3年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 地区実施一覧

	II-a			28 II-a			21 II-a			29 II-b			27
	①地域連携研修会			②無菌調剤室設置施設実地研修			③地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種連携連絡会			地域包括支援センターと連携した住民向け講習会			
	実施日	場 所	参加人数	実施日	場 所	参加人数	実施日	場 所	参加人数	実施日	場 所	参加人数	
1 千代田区				1月20日	文京区薬剤師会	12名							
2 日本橋										10月2日	中央区役所8階大会議室	50名	
3 京橋							11月15日	zoom開催	72名	10月24日	中央区保健所	70名	
4 港区				9月7日	会場確保困難のため	中止	10月15日	オンライン開催	109名				
5 新宿区	2月22日	zoom	19名	8月26日	(公財) 東京都保健医療公社 大久保病院	10名	2月3日	zoom	18名				
6 文京区	12月20日	文京区薬剤師会	16名	1月20日	文京区薬剤師会	12名	9月22日	文京区薬剤師会 (WEB)	27名	9月17日	文京シビックセンター	170名	
7 下谷				8月4日	下谷薬剤師会 事務所	14名	1月25日	zoom開催	70名				
8 浅草							1月25日	オンライン開催	71名	11月24日 3月25日	橋場福祉館 リバーサイドスポーツセンター	60人	
9 墨田区	11月8日	Zoom開催	24名	10月23日	墨田区薬剤師会事務所	17名	12月15日	Zoom開催	33名				
10 江東区	3月24日	Web開催	未定										
11 品川	2月16日	Zoom開催	58名	9/24 10/27	品川区薬剤師会 江原事務所	15名	10月5日	金城医院	5名				
12 目黒区													
13 大田区													
14 世田谷	11月30日	リモート開催	100名				2月22日	YouTube限定配信	174名(視聴3月23日まで121名視聴)	11月28日	世田谷区上馬町つくリセンター	22名	
15 玉川站	7月27日	Zoom開催	170名	3月5日	玉川站薬剤師会事務所1階会議室	中止	11月24日	Zoom開催	24名	3月19日	オンライン、オンデマンド開催	106名	
16 渋谷区													
17 中野区	11月25日	中野サンブラザ研修室3	32名	3月24日	中野サンブラザより配信	34名	9月8日	Zoom開催	56名	11/6	帝京平成大学中野キャンパス	61名	
18 杉並区	2月10日	Zoom開催	54名				3月3日	Zoom開催	46名	1月28日	永福和泉地域区民センター	3名	
19 豊島区													
20 北区							10月17日 2月20日	WEB開催	69名 70名	11月9日	北とびあ スカイホール	100名	
21 荒川区													
22 板橋区	12月14日	板橋区立グリーンホール・オンライン開催	90名	2月	テルモメディカルプラネット	中止	2月18日	web開催	61名	11月28日	板橋区立グリーンホール・オンライン開催	多数 (300名以上)	
23 練馬区	2022/10/27 1/12	web開催	97名 不明	3月10日	延期により今年度中止	中止	2月3日		中止	12月7日	南大泉地域包括支援センター	25名	
24 足立区	8月26日	足立区薬剤師会 会議室	73名							12月15日	足立区梅田地域学習センター	50名	
25 葛飾区	9月13日	web開催	22名	11月20日	水戸薬局本社ビル4F、水戸薬局在宅医療支援センター	5名	2/24 3/7	中止	中止	9/16・10/10・10/20・10/24・10/28	Zoom開催	25名・各集客数50名	
26 江戸川区	11~12月	中止	中止	11月	中止	中止	12月	中止	中止				
27 西多摩	1月21日	中止	中止										
28 八王子市	9月16日	八王子薬剤センター薬局	282名							11月1日	館が丘団地商店街前広場	57名	
29 日野市	2月7~21日	Zoom/IcT (メディカルケアステーション活用)	3名				3月10日	Zoom開催	57名	3月7日	マザアス日野	26名	
30 多摩市							8月31日	Web開催	20名				
31 稲城市													
32 町田市	2月10日	Zoom開催	10名	2月5日		中止	10月14日	KISOコミュニティベース	44名	1月22日	和光大学ボプリホール	8名	
33 府中市	7月26日	Zoom開催	82名	8月6日	ルミエール府中コンベンションホール飛鳥	中止				10/18・10/28・11/22	いきいき居宅介護支援事業所内会議室	17名	
34 調布市				9月11日	調布市薬剤師会事務所	7名				11月18日	調布市薬剤師会事務所	13名	
35 狛江市							12月12日	web開催	36名				
36 小金井市				2月26日	杏林大学医学部付属病院	2名	2月21日	Zoom開催	10人				
37 国分寺市										3月15日	いずみホール	15名	
38 立川市	2月17日	たましんRISURUホール5階	20余名							1月8日	多摩川団地	20名	
39 昭島市													
40 国立市	9月24日	Web開催	21名				5月28日	Web開催	不明	12/3~12/24 (毎週金曜)	国立市北福祉館、他6か所	79名	
41 東大和市	9月14日	中央薬局研修室とZOOM	51名	11月26日	中央薬局休憩室・Zoom	11名	10月29日	市役所会議棟・Zoom	不明	10月5日	東大和市保健センター	地域住民にYouTube公開	
42 武蔵村山市	2月25日	オンライン	37人	12月4.11.18.25日	武蔵村山病院	4名	9月24日	Zoom	38名	10月20日	大南区会館	21名	
43 武蔵野市	2月17日	Zoom開催	75名	2月19日	杏林大学医学部付属病院	2名	8月25日	Zoom開催	199アカウント	4月10日	武蔵野市会場開催+Web開催	19名	
44 三鷹市				2月19日	杏林大学医学部付属病院	2名				3月29日	Zoom開催	70名	
45 小平市	9月10日	Zoom開催	58名				12月4日	Zoom開催	68名	3月12日	Zoom開催	76名	
46 東村山市	10月28日	Web開催	12名				2月9日	web開催	57名	12月10日	恩多ふれあいセンター薬局	50名	
47 西東京市							2月予定	西東京中央総合病院	中止				
48 清瀬市	9月15日	Zoom開催	50名										
49 東久留米市	9月15日	Web開催	50名										

令和３年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修<研修会A>地区開催一覧

	共催薬剤師名	開催日	時間帯	場所	受講数	受講証明書 発行者	募集数	一般 受講料	会員 受講料	1-1 DVD	1-2	1-3	2-1	2-2①	2-2②	2-3	演習	まとめ	開催 時間 計	研修会番号
1	公益社団法人 東京都薬剤師会	7月22日	12：00～16：35	連合会館 大会議室	127	都薬	116	9,000	3,000	23	20	20	30	20	20	10	70	30	275	2021-13-028
2	一般社団法人 品川区薬剤師会	5月23日	10：00～15：00	きゅりあん	27	都薬・品薬	24	3,000	1,000	23	20	20	30	20	20	10	70	30	300	2021-13-008
3	一般社団法人 大田区薬剤師会	6月5日	15：00～19：20	大田文化の森 第3、4集会室	21	都薬	20	9,000	3,000	23	20	20	30	20	20	10	70	30	260	2021-13-005
4	一般社団法人 板橋区薬剤師会	7月17日	15：30～20：10	板橋区グリーンホール2F	27	都薬・板薬	50	9,000	3,000	23	20	20	30	30	30	10	70	30	278	2021-13-018
5	一般社団法人 練馬区薬剤師会	3月5日	16：00～21：00	練馬区薬剤師会（Web開催）	16	都薬・練薬	24	5,000	5,000	23	20	20	30	20	20	10	90	30	300	2021-13-100
6	一般社団法人 足立区薬剤師会	12月5日	10：00～14：30	シアター1010 ギャラリーB,C	53	都薬・足薬	150	5,000※	3,000※	23	20	20	30	20	20	10	70	30	270	2021-13-079
7	一般社団法人 八王子薬剤師会	8月7日	17：30～21：40	八王子薬剤師会研修センター（Web開催）	33	都薬・八王子	40	3,000	3,000	23	20	20	30	20	20	10	40	30	250	2021-13-038
8	一般社団法人 小金井市薬剤師会	1月26日	10：00～14：30	武蔵野スイングビル11階 レインボーサロン	27	都薬	80	9,000	3,000	23	20	25	30	20	20	10	70	30	270	2021-13-094
	一般社団法人 国分寺市薬剤師会																			
	一般社団法人 武蔵野市薬剤師会																			
	一般社団法人 三鷹市薬剤師会																			
9	一般社団法人 西武薬剤師会	6月27日	9：00～13：30	東村山サンパルネ	31	都薬	40	5,000	3,000	23	20	20	30	20	20	10	70	30	270	2021-13-023
10	一般社団法人 西武薬剤師会	6月27日	14：30～19：00	東村山サンパルネ	26	都薬	40	5,000	3,000	23	20	20	30	20	20	10	70	30	270	2021-13-024
延期	一般社団法人 文京区薬剤師会	2月21日	14：00～18：05	文京区薬剤師会事務所	16	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため主催者及び受講者の安全面を考慮し延期														
延期	一般社団法人 墨田区薬剤師会	2月26日	16：00～20：30	墨田区薬剤師会	16	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため主催者及び受講者の安全面を考慮し延期														

※ A・Bのセット価格、Aのみ受講する場合：（一般）3,000、（会員）2,000

令和３年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修<研修会B>地区開催一覧

【旧プログラム】

	共開催薬剤師会名	開催日	時間帯	場所	DVD	受講数	受講証明書 発行者	募集数	一般 受講料	会員 受講料	導入	演習	まとめ	レポー ト作成	開催 時間 計	研修会番号
1	公益社団法人 東京都薬剤師会	6月12日	15：00～20：00	ベルサール神田 Room1+2+3+4	頭痛	142	都薬	120	9,000	3,000	20	230	5	15	300	2021-13-006
2	一般社団法人 品川薬剤師会	7月18日	10：00～15：00	品川区第一地域センター	腰痛	22	都薬・品薬	40	3,000	1,000	20	240	5	15	300	2021-13-018
3	一般社団法人 八王子薬剤師会	9月23日	8：00～12：45	八王子薬剤師会研修センター	腰痛	33	都薬・八王子	24	3,000	3,000	20	240	5	15	285	2021-13-030

【新プログラム】

	共開催薬剤師会名	開催日	時間帯	場所	受講数	受講証明書 発行者	募集数	一般 受講料	会員 受講料	導入	講義 DVD	演習	まとめ	レポー ト作成	開催 時間 計	研修会番号
1	一般社団法人 足立区薬剤師会	12月5日	15：30～20：00	シアター1010 ギャラリーB,C	26	都薬	150	5,000※	3,000※	10	21	210	5	15	270	2021-13-061
2	一般社団法人 小金井市薬剤師会	2月6日	9：30～14：30	武蔵野スイングビル11階 レインボーサロン	19	都薬	40	9,000	3,000	15	21	240	5	15	300	2021-13-076
	一般社団法人 国分寺市薬剤師会															
	一般社団法人 武蔵野市薬剤師会															
	一般社団法人 三鷹市薬剤師会															
3	一般社団法人 西武薬剤師会	12月5日	12：00～17：00	東村山サンパルネ	34	都薬	45	9,000	3,000	15	21	210	5	15	300	2021-13-59

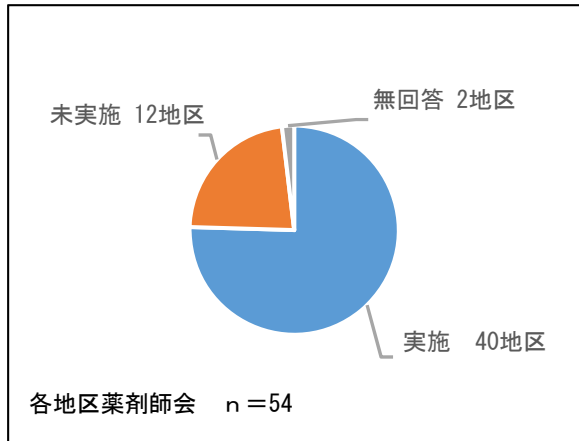
※ A・Bのセット価格、Aのみ受講する場合：（一般）3,000、（会員）2,000

令和3年度 医薬品・情報管理センター 利用実績

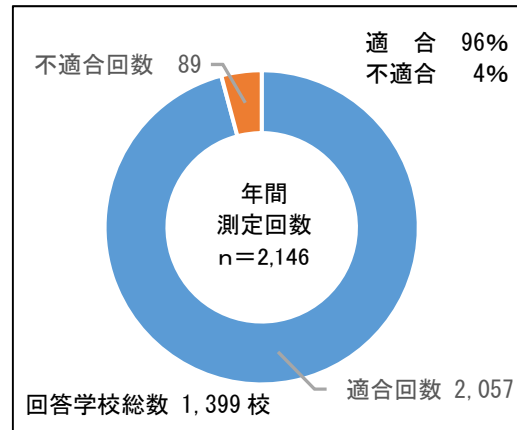
	情 報 業 務	備蓄医薬品 品目数	利用薬局延数 年累計	利用薬局実数 年累計	取扱品目数 年累計
1 豊 島 区	実施 (263)	1,774	3,806	729	19,456
2 大 田 区	実施 (実績不明)	0			
3 立川地区	実施 (実績不明)	0			
4 江戸川区	実施 (実績不明)	0			
5 荒 川 区	実施 (実績不明)	0			
6 武 蔵 野	実施 (254)	1,673	7,598	572	19,213
7 杉 並 区	実施 (1,025)	1,400	10,138	1,467	31,850
8 練 馬 区	実施 (55)	1,405	11,356	1,787	36,825
9 日 野	実施 (実績不明)	0			
10 世田谷区	実施 (実績不明)	3,389	1,813	111	13,742
11 中 野 区	実施 (実績不明)	489	1,176	469	2,590
12 北 区	実施 (実績不明)	958	3,335	858	8,689
13 三鷹地区	実施 (23)	2,339	13,482	625	27,578
14 目 黒 区	実施 (実績不明)	1,675	4,777	553	11,400
15 港 区	実施 (実績不明)	0			
16 品 川 区	実施 (実績不明)	492	1,289	369	4,727
17 町田地区	実施 (実績不明)	0			
18 千代田区	実施 (実績不明)	0			
19 文 京 区	実施 (実績不明)	0			
20 板 橋 区	実施 (296)	1,622	14,904	1,404	42,905
21 八 王 子	実施 (実績不明)	0			
22 江 東 区	実施 (258)	859	1,519	417	2,516
23 渋谷区	実施 (実績不明)	0			
24 台 東 区	実施 (実数不明)	0			
25 葛 飾 区	実施 (実績不明)	0			
26 西武地区	実施 (実績不明)	61	116	100	150
27 墨 田 区	実施 (実績不明)	523	2,966	601	2,616
28 新 宿 区	実施 (12)	918	1,271	496	2,424
29 中 央 区	実施 (実績不明)	0			
30 足 立 区	実施 (1,408)	1,832	914	250	1,087
31 京王地区	実施 (実績不明)	0			
32 西多摩地	実施 (実績不明)	0			
33 多摩中央	実施 (実績不明)	0			
合 計		21,409	80,460	10,808	227,768

令和2年度 学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査 「ダニ・ダニアレルゲン検査」結果報告

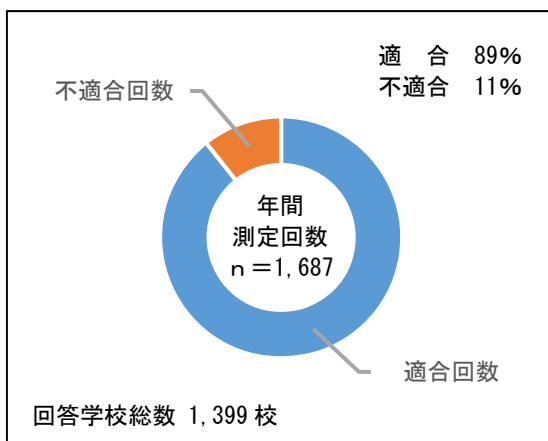
* 各地区薬剤師会の検査実施状況



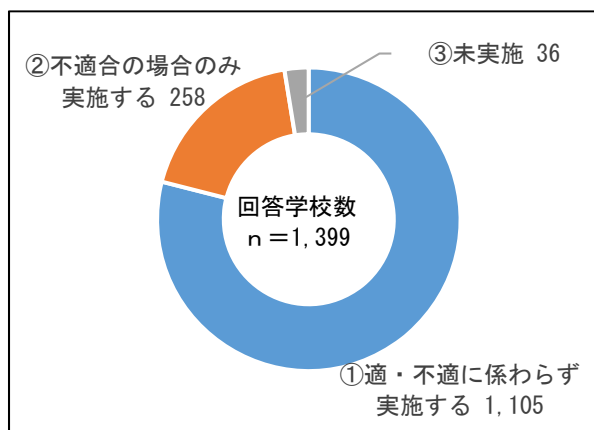
* 検査結果【保健室】（複数回答を含む）



* 検査結果【保健室以外】（複数回答を含む）

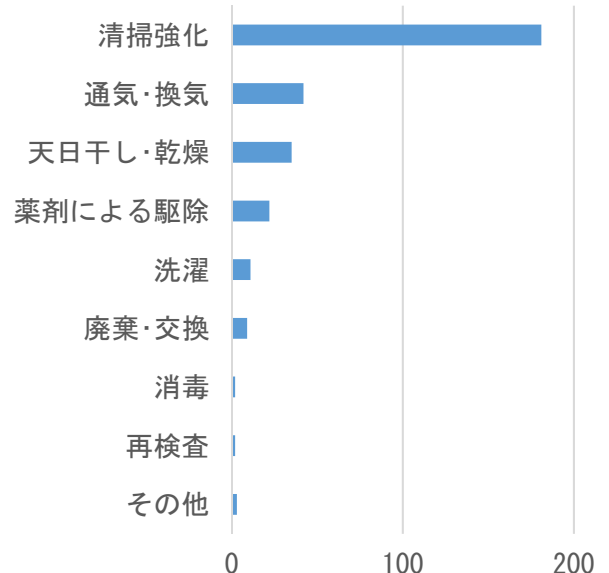


* 指導・助言の実施状況



* 不適合時の指導・助言内容集計（n=225）

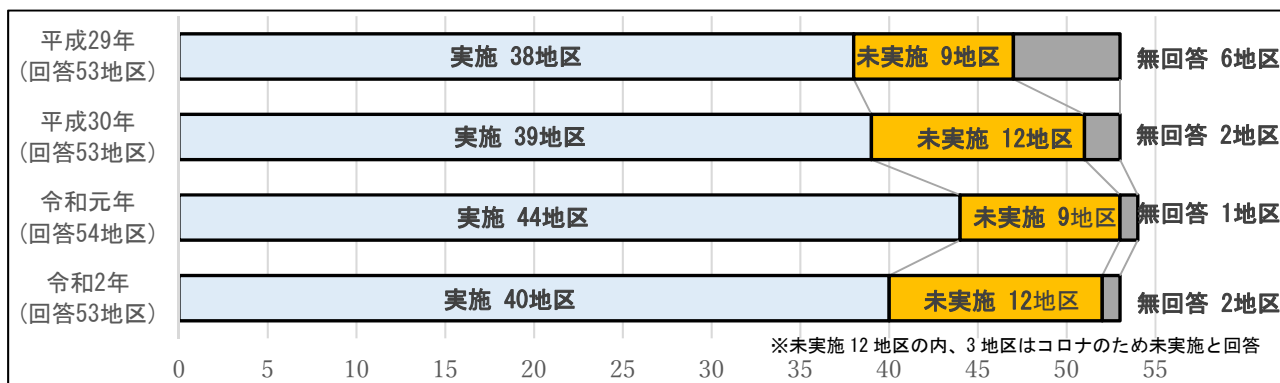
- 圧倒的に多かったのは、清掃強化であった（n=181）
具体的に掃除機のかけ方や頻度まで言及している例があった
- 次に多かったのが、通気・換気であった（n=42）
このうち 40 例は清掃強化と通気・換気の両方を助言・指導していた
- 薬剤を使用しての駆除を提言している例があった（n=22）
具体的な薬剤の名称を挙げて指導している例があった
学校において駆除剤使用の可否は十分検討する必要がある
その上で使用する場合には、使用場所への児童生徒の立ち入りや、使用後の換気についても助言・指導できると考えられる



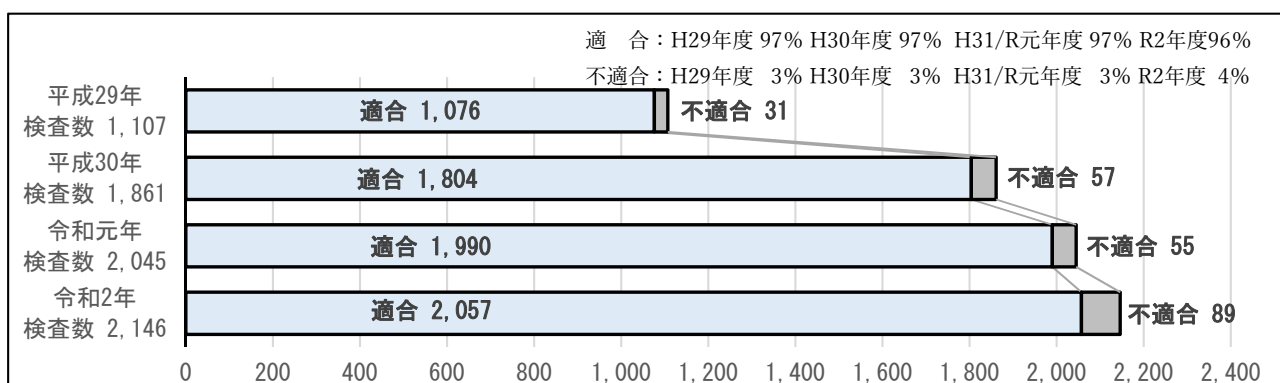
学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査集計結果の比較

●「ダニ・ダニアレルゲン検査」集計結果の比較

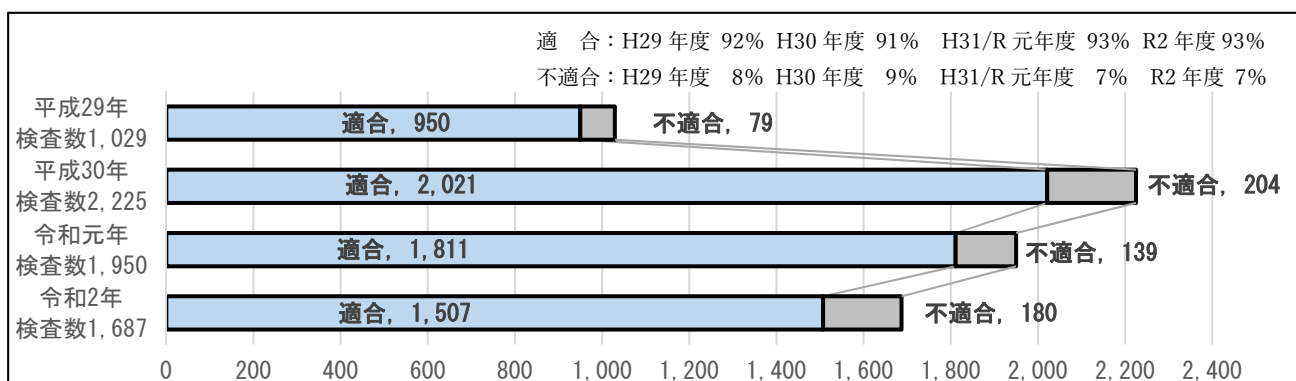
* ダニ・ダニアレルゲン検査の実施状況



* ダニ・ダニアレルゲン検査結果 検査場所【保健室】



* ダニ・ダニアレルゲン検査結果 検査場所【図書室、体育館、パソコン室 他】



* 指導・助言の実施状況（学校数）

